

第6章

施工計画書添付図書

第6章 施工計画書添付図書

本章では、前述の「総合施工計画書」及び「木工事（構造）施工計画書」に関連する添付図書の作成例を紹介します。

これらの作成例は図書上に作成概要や記載すべき事項等を追記しており、実物件にて図書を整備する際の参考にして下さい。

なお、本作成例はあくまで一例を示したものであり、全ての工事に共通で使用できるものではありません。建物規模や工事内容等に応じて、整備する図書、記載すべき事項の追加・省略・代替等の検討が必要です。

施 工 計 画 書 添 付 図 書

※本図書は「JBN＋PWAモデル」を対象とし、
図書中に記載すべき事項や留意事項等を追記した作成例を示します。

目 次

着工前準備段階

総合施工計画書に含まれる図書

No.6 工程表

No.24 総合仮設計画図

No.25 足場計画図

総合施工計画書関連図書

No.26 プレカット図

No.27 木構造工事見積書

No.28 施工図(基礎関連図書)

施工計画段階

木工事(構造)施工計画書に含まれる図書

No.37 材料の合法性確認書類(出荷証明書)

No.38 施工フロー

No.49 建て方計画図

No.6 工程表

工事全体のスケジュールや各作業に必要な工程をまとめつつ、それぞれの作業で必要となる期間や、具体的な手順などの情報を網羅した工程表を作成する。

本工程表を全ての工事関係者が共有することにより、役割分担、作業手順、各工程間の関連性が明確になり、納期厳守の徹底、効率的な工事の進行による、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

木材調達や各種施工管理図書の作成等、準備期間も含めて作成することが重要である。

①工程表

②工程表(工程相關明示)

【No.6】①工程表

JBN+PWA 木造事務所モテル 新築工事工程表

↑ 木構造工事の工程

	2024年 1月	2024年 2月	2024年 3月	2024年 4月	2024年 5月	2024年 6月	2024年 7月	2024年 8月	2024年 9月	備考
仮設工事	全体工程の肝となる水構造工事について、工事発注から建て方完了までの工程を押さえる ● 基礎 ● 基礎設置 建て方決定時									
基礎工事	新設木材在庫状況確認・調整 プレキャスト製作時 基礎工事 加工・基礎設置									
プレキャスト	建て方完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
木工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
外装工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
屋根工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
板金工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
金属製建具工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
塗装工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
内装工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
内装仕上工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
天井工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
左官工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
木製建具工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
電気設備工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
給排水設備工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
空調設備工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
ガス工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
消防設備工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
防水工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
設備機器工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
雑工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
外構工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
鉄骨工事	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
検査関係	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									
予定	基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手 基礎工事完了後、内外装及び設備工事に着手									

JBN+PWA 木造事務所モデル 新築工事工程表

- ↑ 工事科目間のネットワーク
- ↑ 工程の進捗と検査の関係

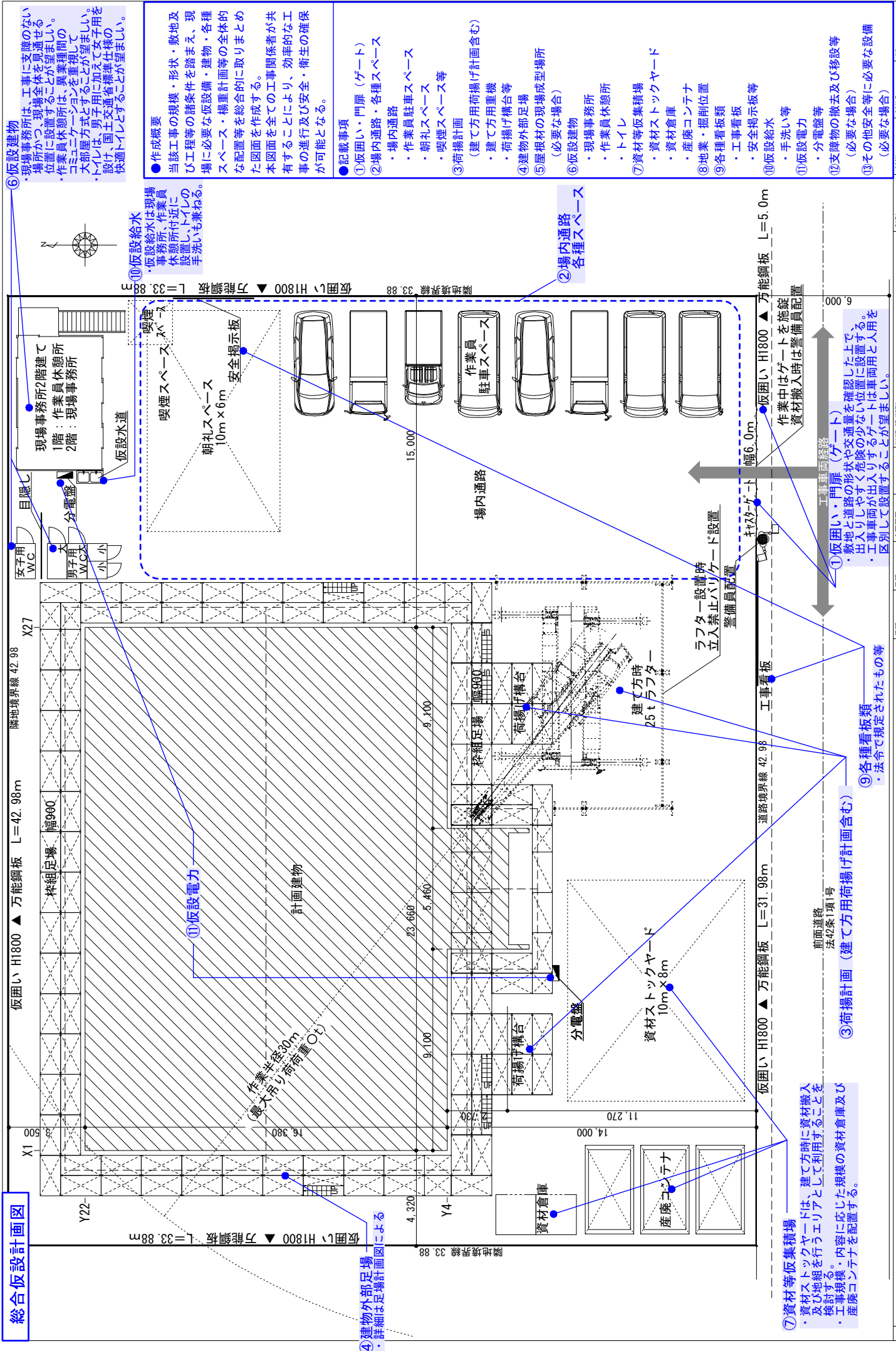
●作成概要
全体のスケジュールと各作業に必要な工程をまとめつつ、それぞれ作業が必要となる期間や、具体的な手順などの情報を網羅した工程表を作成する。

●記載事項
①実施する全ての工事科目
②検査箇所の予定
③工程の節目となる期日
④工事科目間のネットワーク
⑤工程の進捗と検査との関係

[illegible]

No.24 総合仮設計画図

当該工事の規模・形状・敷地及び工程等の諸条件を踏まえ、現場に必要な仮設備、建物、各種スペース、楊重計画等の全体的な配置等を総合的に計画する。
本計画図を全ての工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。



凡						NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2022. 12	SIGN A3 S-1 : 150	NO. SK-00
例						NAME OF PLAN 総合設計計画図			JBN+PWA

No.25 足場計画図

足場計画は足場上での作業性確保が最重要であるが、敷地の状況、建物の構造・規模、建て方工事を始めとする工事内容等の諸条件を踏まえた計画図を作成する。

本計画図を関連する工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

AK-01 足場組立図

AK-02 足場計画図(建て方前)

AK-03 足場計画図(建て方後)

AK-04 足場矩計図

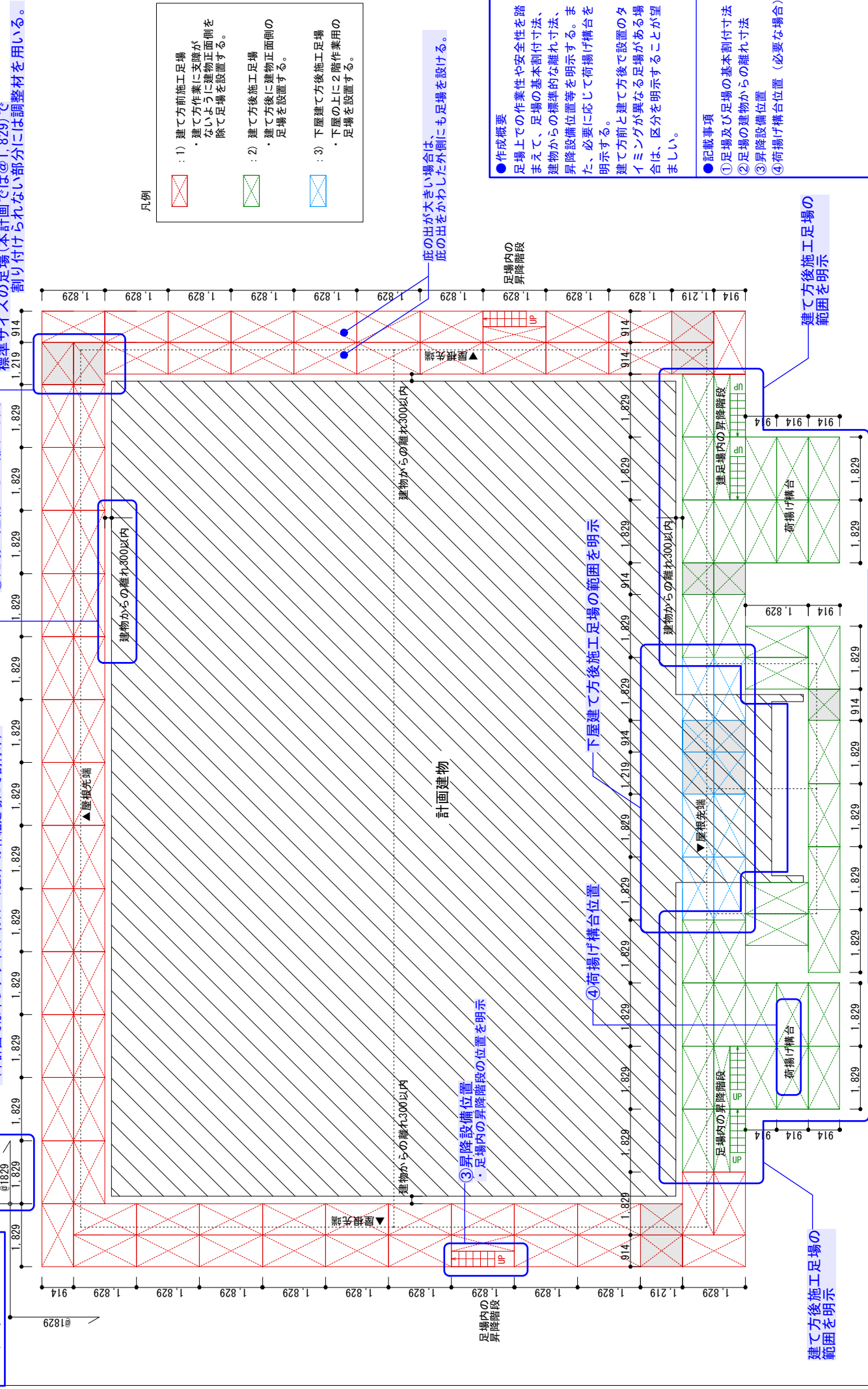
足場組立図

①足場及び足場の基本割付寸法

- ・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
(本計画ではインデチサイズ (914×1,829) の枠組足場にて割付け)

②足場の建物からの離れ寸法

調整材使用箇所
標準サイズの足場 (本計画では@1,829) で
割り付けられない部分には調整材を用いる。



凡例

- ①: 建て方前施工足場
・建て方作業に支障がないように建物正面側を除て足場を設置する。
- ②: 建て方後施工足場
・建て方後に建物正面側の足場を設置する。
- ③: 下屋建て方後施工足場
・下屋の上に2階作業用の足場を設置する。

- 作成概要
足場上での作業性や安全性を踏まえて、足場の基本割付寸法、建物からの標準的な離れ寸法、昇降設備位置等を明示する。また、必要に応じて荷揚げ構台を明示する。
建て方前と建て方後で設置のタ イミングが異なる足場がある場合は、区分を明示することが望ましい。
- 記載事項
①足場及び足場の基本割付寸法
②足場の建物からの離れ寸法
③昇降設備位置
④荷揚げ構台位置 (必要な場合)

建て方後施工足場の
範囲を明示

建て方後施工足場の
範囲を明示

凡例	DATA	2023. 10	STGN	SCALE	A3 S=1:100	NO	AK-01
	NAME OF WORK	JBN+PWA	木造事務所モデル	変更履歴	承認	承認	承認
	NAME OF PLAN	足場組立図					

足場計画図（建て方前）

●作成概要

足場上での作業性や安全性を踏まえて、建て方前に必要となる足場の基本平面割付寸法・高さ寸法、昇降設備・頭つなぎ・根がらみ・壁つなぎの位置、手摺等を明示する。

●記載事項

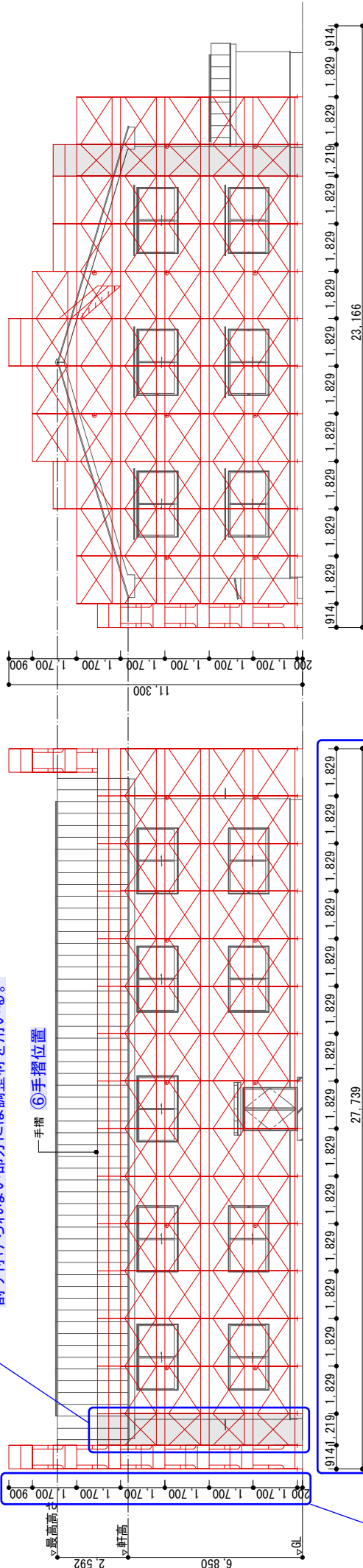
- ①足場及び足場の基本割付寸法
- ②昇降設備位置
- ③頭つなぎ位置
- ④根がらみ位置
- ⑤壁つなぎ位置
- ⑥手摺位置

凡例



: 1) 建て方前施工足場

調整材使用箇所
標準サイズの足場（本計画では@1,829）で
割り付けられない部分には調整材を用いる。



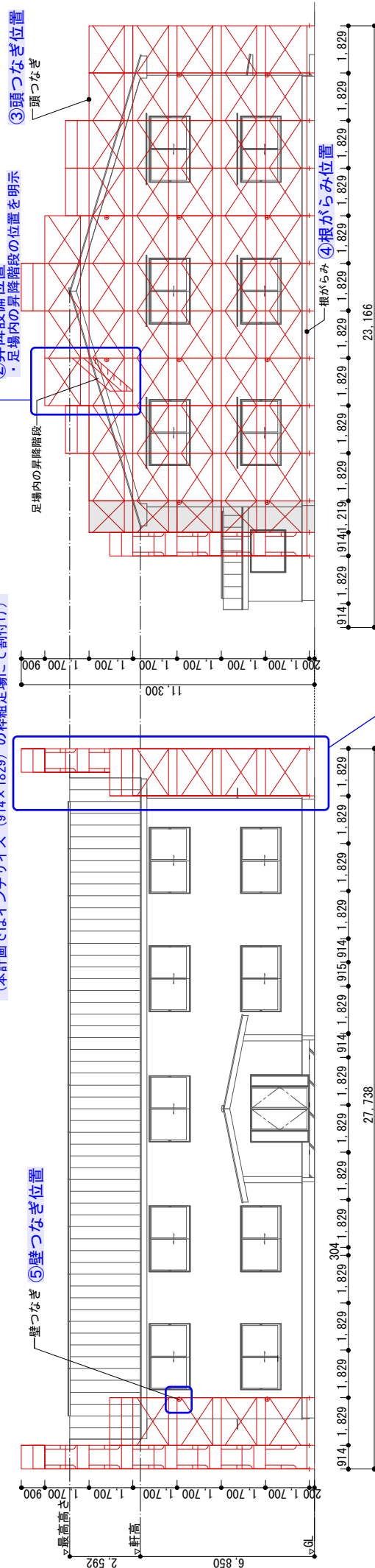
①足場及び足場の基本割付寸法
・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
（本計画ではインチサイズ（914×1829）の枠組足場にて割付け）

北立面図（外側）

①足場及び足場の基本割付寸法
・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
（本計画ではインチサイズ（914×1829）の枠組足場にて割付け）

西立面図（外側）

②昇降設備位置
・足場内の昇降階段の位置を明示



底の出が大きい場合は、
底の出をかわした外側にも足場を設ける。

南立面図（外側）

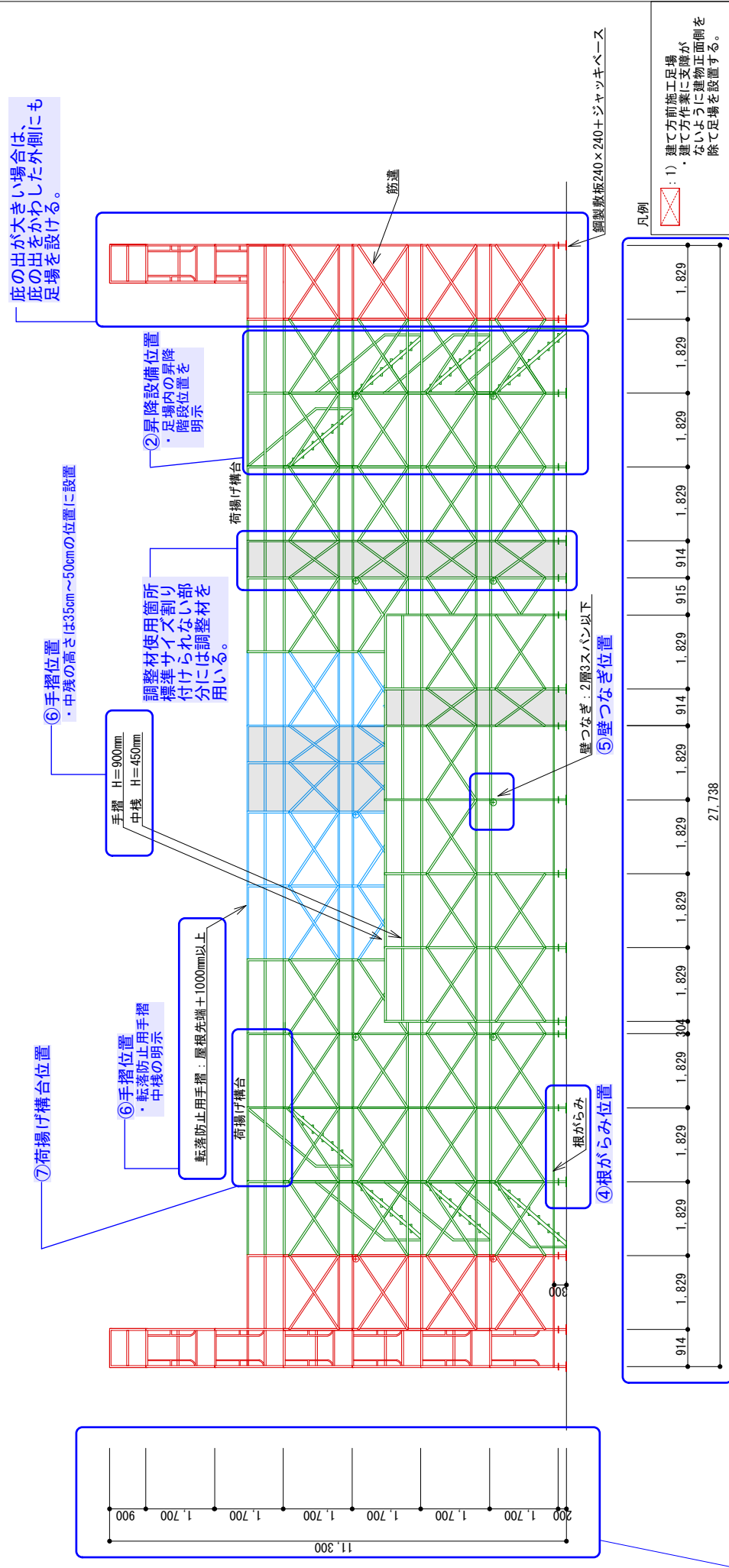
東立面図（外側）

足場矩計図

● 作成概要

足場上での作業性や安全性を踏まえて、足場の基本平面割付寸法・高さ寸法、昇降設備・頭つなぎ・根がらみ・壁つなぎの位置、手摺等を明示する。また、安全対策上必要となる部材や寸法等を明示する。

- 記載事項
- ①足場及び足場の基本割付寸法
- ②昇降設備位置
- ③頭つなぎ位置
- ④根がらみ位置
- ⑤壁つなぎ位置
- ⑥手摺位置
- ⑦荷揚げ構台位置（必要な場合）



①足場及び足場の基本割付寸法
・足場の割付開始位置と割付寸法を明示
(本計画ではインチサイズ (914×1829) の枠組足場にて割付け)

南面矩計図

- ①: 建て方前施工足場
 - ・ 建て方作業に支障が
ないよう建物正面側を
除て足場を設置する。
- ②: 建て方後施工足場
 - ・ 建て方後に建物正面側の
足場を設置する。
- ③: 下屋建て方後施工足場
 - ・ 下屋の上に2階作業用の
足場を設置する。

[illegible]

No.26 プレカット図

設計図書を元にプレカット事業者が作成する。

元々、プレカット図はプレカット工場での加工や現場の組み立て時に参照される加工図であるが、本手引きでは設計者・施工者・プレカット事業者が木構造にかかる木材及び金物等の仕様、加工形状、配置等に関する情報を共有し、品質、工程、工期、安全の適確な管理につなげるための施工図として位置付けている。

標準図系	P111 プレカット凡例図
	P121 プレカット仕様書
平面図系 伏図	P211 プレカット1階床伏図
	P212 プレカット2階床、1階小屋伏図
	P213 プレカット1階母屋伏図
	P214 プレカット小屋伏図
	P215 プレカット母屋伏図
	耐力壁・柱金物図
	P221 プレカット1階耐力壁・柱頭柱脚金物図
	P222 プレカット2階耐力壁・柱頭柱脚金物図
	面材配置図
	P231 プレカット2階床面材配置図
	P241 プレカット下屋面材配置図
	P242 プレカット大屋根面材配置図
	窓材伏図
	P251 プレカット1階窓材伏図
	P252 プレカット2階窓材伏図
断面図系	P311 プレカット断面図1
	P312 プレカット断面図2
	P313 プレカット断面図3
	P314 プレカット断面図4
	P315 プレカット断面図5

プレカッタ図

プレカッタ加工凡例図									
腰掛鋸 (マス伸ばし) ※主に梁、母屋		大入		開差し		横差し		上部間柱	

プレカット仕様書

躯体使用木材一覧 ①躯体使用木材の部位別の材種・等級・区分・標準の寸法

部 位	材 種	材 種	等 級	区 分	寸 法
土台	製材	ヒノキ	無等級	K0(乾燥材)	120x120
管柱	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120
隅柱	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120
通し柱					
床梁	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120～240
	集成材	ハイブリット	対称異等級	E120-F330	120x270～
	集成材	ベイマツ	対称異等級	E135-F375	(特記)
小屋梁	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120～240
	集成材	ハイブリット	対称異等級	E120-F330	120x270～
小屋束	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120
大引					
火打	製材	ベイマツ	無等級	K0(乾燥材)	90x90
母屋	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120
棟木	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	120x120
垂木	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	45x90@455
間柱	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	45x120@455
窓台・まぐさ	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	45x120
筋かい	製材	ベイマツ	無等級	K0(乾燥材)	45x105
床面材	構造用合板	針葉樹(実無)	特類	2級	t=24(910×1820)
合板受け	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	90x90@910
雲筋かい	製材	スギ	無等級	GRN	13x90(@4m以下)
屋根面材	構造用合板	針葉樹	特類	2級	t=12(910×1820)
破風下地	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	30x180
鼻隠下地	製材	スギ	無等級	K0(乾燥材)	30x180

躯体使用耐力面材一覧 ③躯体使用耐力面材の凡例・種類別の仕様・認定番号・厚み・使用する釘の種類と間隔及び壁倍率等

凡例	耐力面材種類	耐力仕様	認定	厚みmm	釘種類	外周釘@	中通釘@	壁倍率	受材
▲	構造用WDF,構造用パネチクルボード	真壁・真壁床勝	告示1100号	9	N50/NZ50	150	150	2.5	30X40以上、N75@300以下
△	構造用WDF,構造用パネチクルボード	真壁・真壁床勝	告示1100号	9	N50/NZ50	75	150	4.0	30X40以上、N75@120以下
◆	ダイライトMS	大壁	建設省富指発第9号	9	N50/SF50	100	200	2.5	

躯体使用金物一覧 ②躯体使用金物の用途・使用部位別の一般名称・使用金物

用 途・使 用 部 位	一 般 名 称	使 用 金 物
基礎アンカーボルトー土台緊結用	アンカーボルトM12	ZマクアンカーボルトM12 A-40 又は同等認定品
土台アンカーボルト緊結	角座金W4.5x40/座金用スワリングSW12	スクリュー座金(ザボレス)
基礎アンカーボルトーホールダウ金物緊結用	アンカーボルトM16	ZマクアンカーボルトM16 A-90 ※高耐力HDは専用のアンカーボルトを使用
筋かい	BP-2, BP-2FS	2倍筋かい(バッドIII)
梁・梁・蟻大入掛等の接合	S8-E2	新腰高羽子板
		一部金物工法有(テックワンP3)
梁継手	短ざくS	ホールド短冊SL10(特記は×2)
梁・柱・胴差の接合	M12(片引、面引)	ホールドウジョイント25KN用(特記)
		該当部無し
ボルト接合部の座金	角座金W4.5x40/座金用スワリングSW12	一部金物工法有(テックワンP3)
柱・横架材の接合	かど金物CP-T、山形プレート 引き寄せ金物S-HD10 引き寄せ金物S-HD15 引き寄せ金物S-HD20 引き寄せ金物S-HD25 引き寄せ金物S-HD15×2 引き寄せ金物S-HD15×2	コンパクトコーナー、コンパクトコーナー(床合板仕様) ホールドウコーナー、ホールドウコーナー(床合板仕様) ビス止めホールドウ 15KN用(一部枠材用) ビス止めホールドウ 20KN用(一部枠材用) ビス止めホールドウ 25KN用(一部枠材用) ビス止めホールドウ 35KN用(一部枠材用) ビス止めホールドウHI43(一部枠材用) ビス止めホールドウHI68
小屋・下屋等の火打	火打金物HB	ホールド火打ち600
小屋束と梁・母屋等の固定	かすがいC120/C150	フットかすがいII(両面打)
垂木と桁の接合	くら金物SS/ひねり金物ST	外木サグ-ダ
垂木と母屋・棟木の接合	釘N90×2	外木サグ-ダ ※母屋はN90

●図面概要

図面に使用する木材の部位別の仕様、金物の仕様及び耐力面材の仕様の一覧を整理した図面。
各プレカット図に記載された木材、金物、耐力面材の仕様等の照合に用いる。

●確認事項

- 躯体使用木材の部位別の材種・樹種・等級・区分・標準の寸法
- 躯体使用金物の用途・使用部位別の一般名称・使用金物
- 躯体使用耐力面材の凡例・種類別の仕様・認定番号・厚み・使用する釘の種類と間隔及び壁倍率等

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット仕様書	図面番号	P121
施工者	〇〇〇建設 〇〇〇〇〇〇〇〇	縮尺	-	最終更新日	2024-01-31

プレカット1階床伏図

- ①土台の位置
- ②土台の継手位置・形状
- ③土台同士の仕口形状・種類

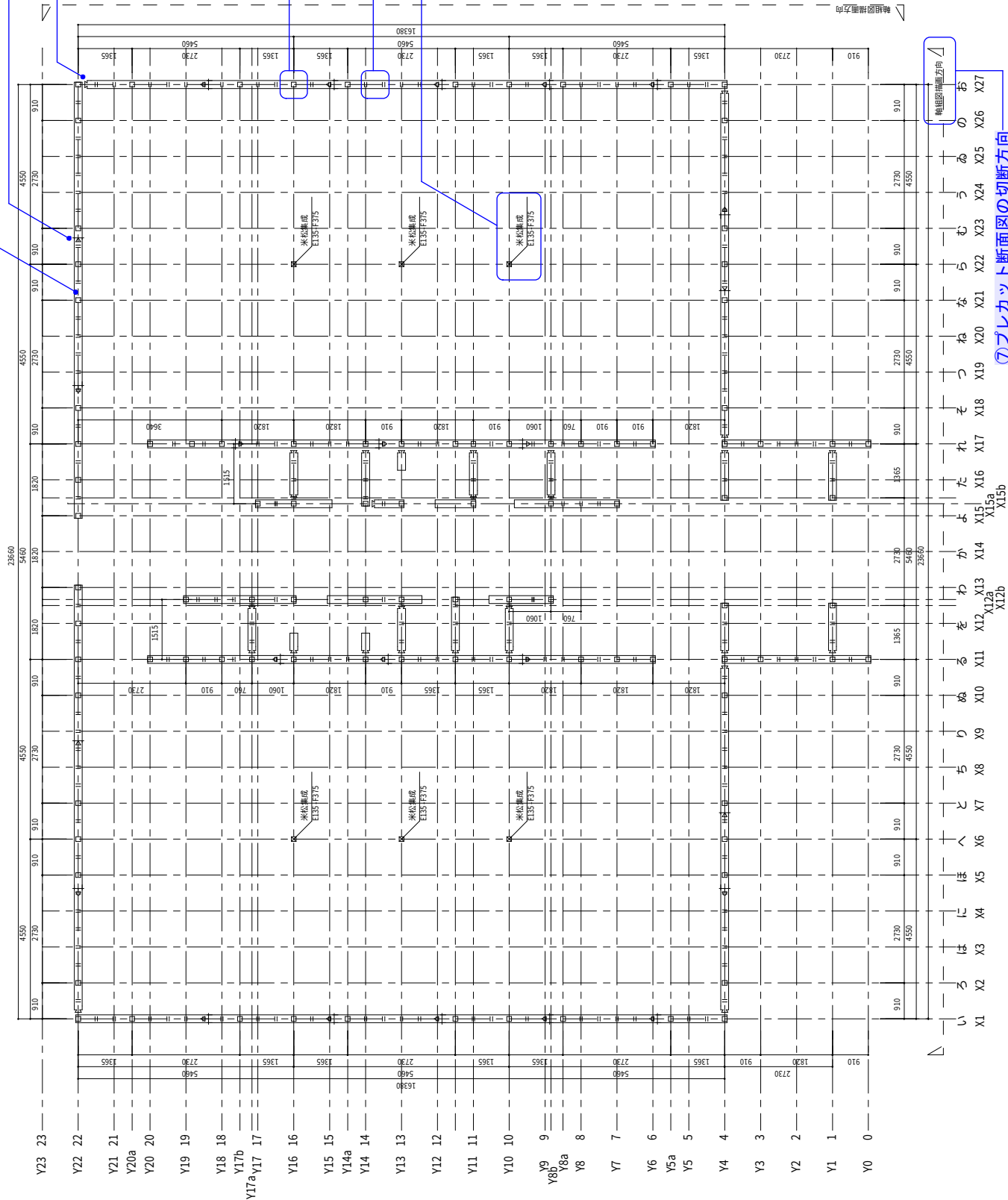
- ④柱の位置・種類

- ⑤間柱の位置・上下関係

- ⑥特記がある材の仕様

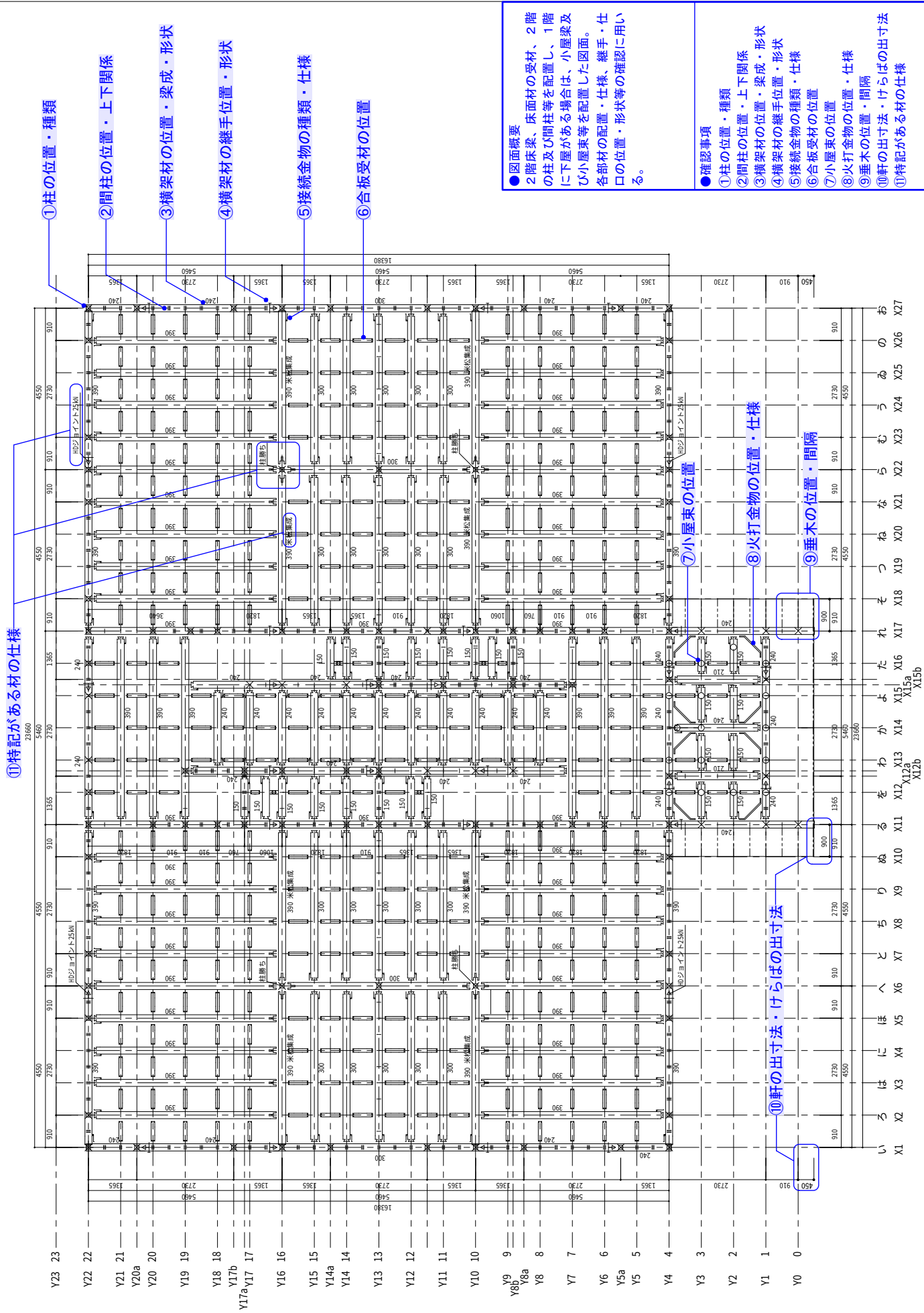
●図面概要
土台及び1階の柱・間柱を配置した図面。
各部材の配置・仕様、継手・仕口の位置・形状等の確認に用いる。
ただしアンカーボルトの位置寸法は明示していないので、別途作成が必要。

- 確認事項
①土台の位置
②土台の継手位置・形状
③土台同士の仕口形状・種類
④柱の位置・種類
⑤間柱の位置・上下関係
⑥特記がある材の仕様
⑦プレカット断面図の切断方向



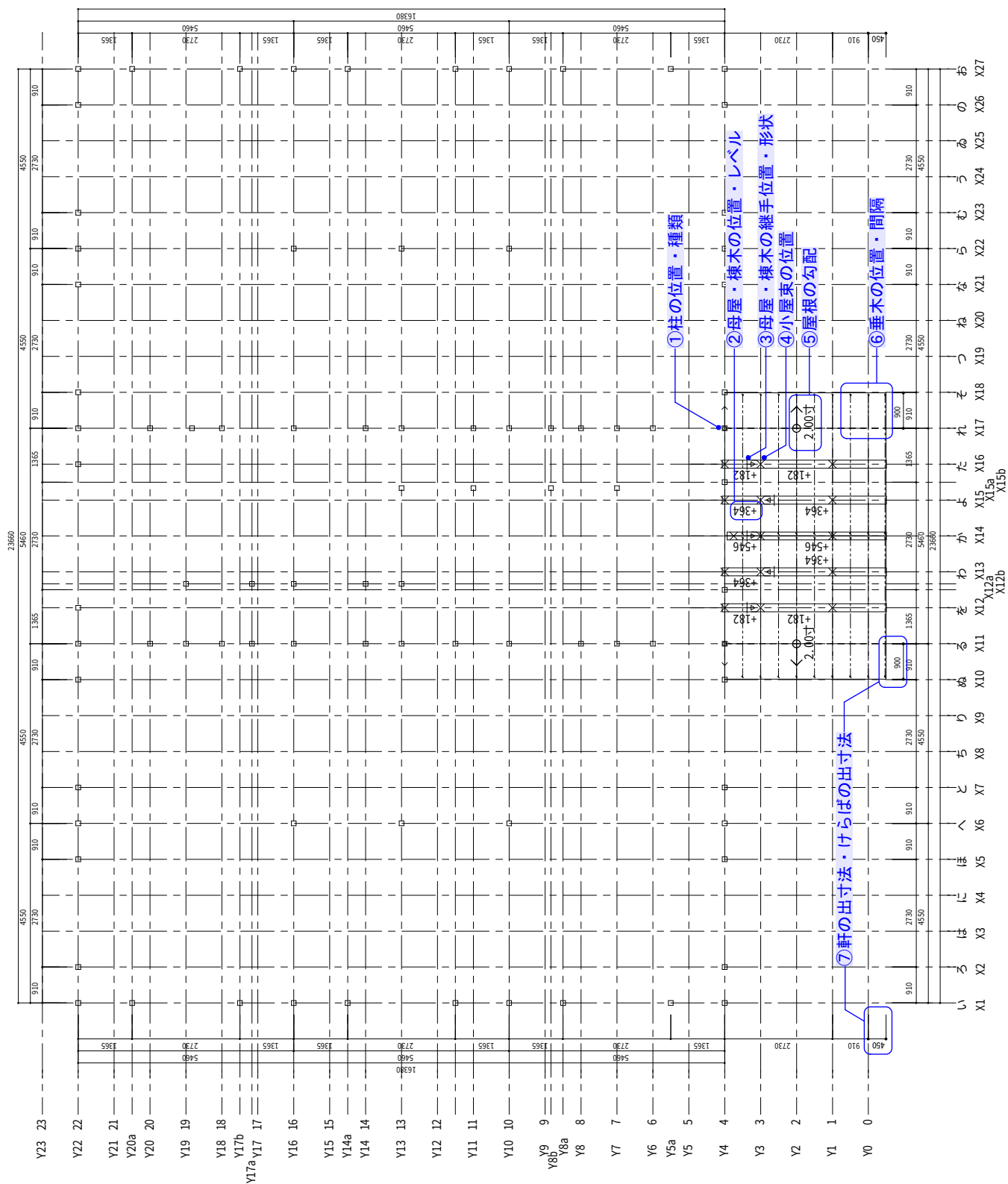
工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P211
施工者	設計者	図面名称	プレカット1階床伏図
	設計者	縮尺	A3 S=1:100
	設計者		最終更新日
	設計者		2024-01-31

プレカット2階床・1階小屋伏図



工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル			図面名称		図面番号		P212	
	施工者	〇〇〇建設	設計者	〇〇〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	最終更新日	2024-01-31
		縮尺		A3 S=1:100		最終更新日		2024-01-31	

プレカット1階母屋伏図



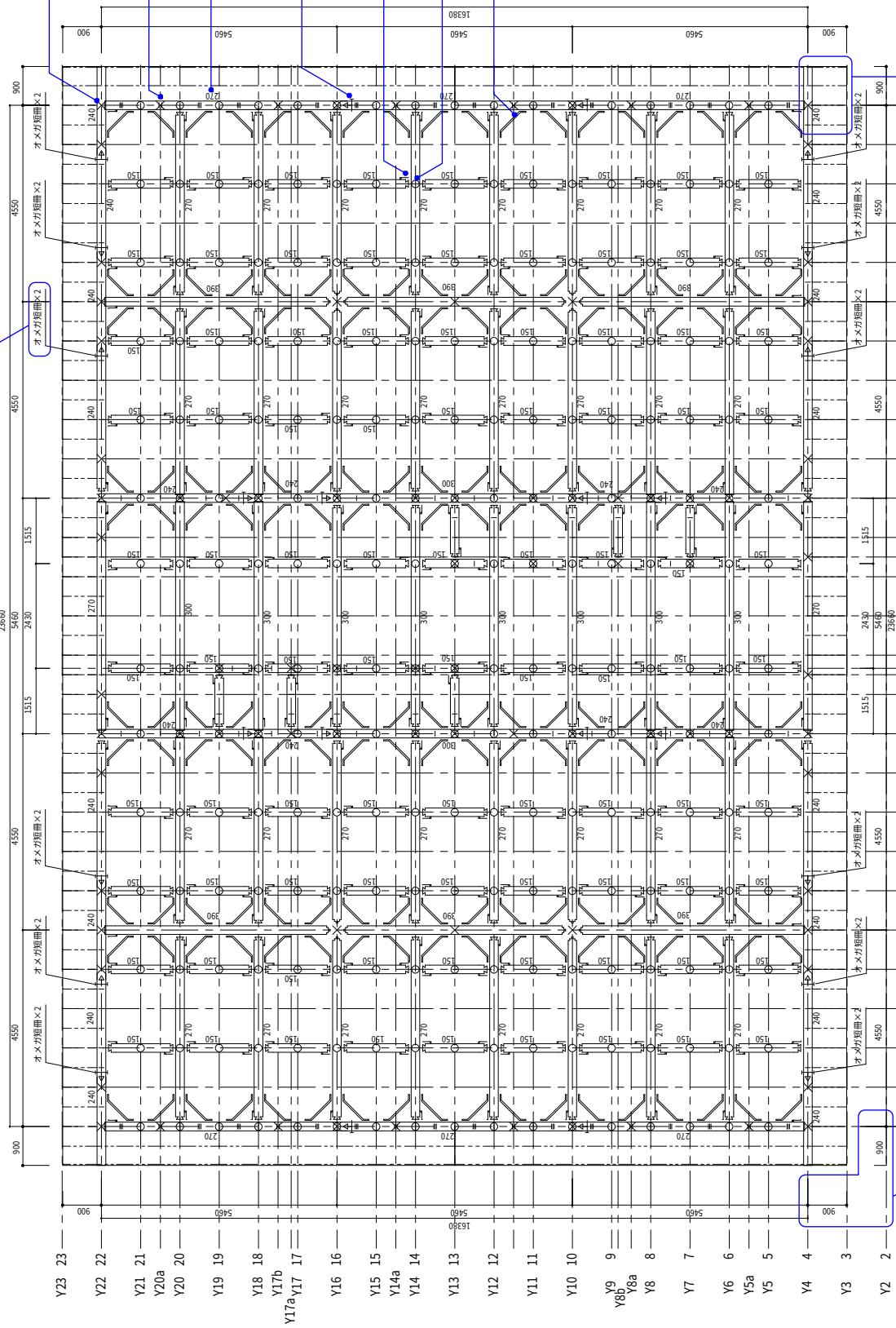
1階に下屋がある場合に、小屋束・母屋・垂木等を配置した図面。
各部材の配置・仕様、継手の位置・形状、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

①柱の位置・種類
②母屋・棟木の位置・レベル
③母屋・棟木の継手位置・形状
④小屋束の位置
⑤屋根勾配
⑥垂木の位置・間隔
⑦軒の出寸法・けらばの出寸法

工事名称	JBN+PIWA 木造事務所モデル			図面名称	プレカット1階母屋伏図	図面番号	P213
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	設計者	〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇	A3 S=1:100	最終更新日 2024-01-31

プレカット小屋伏図

⑩特記がある材の仕様



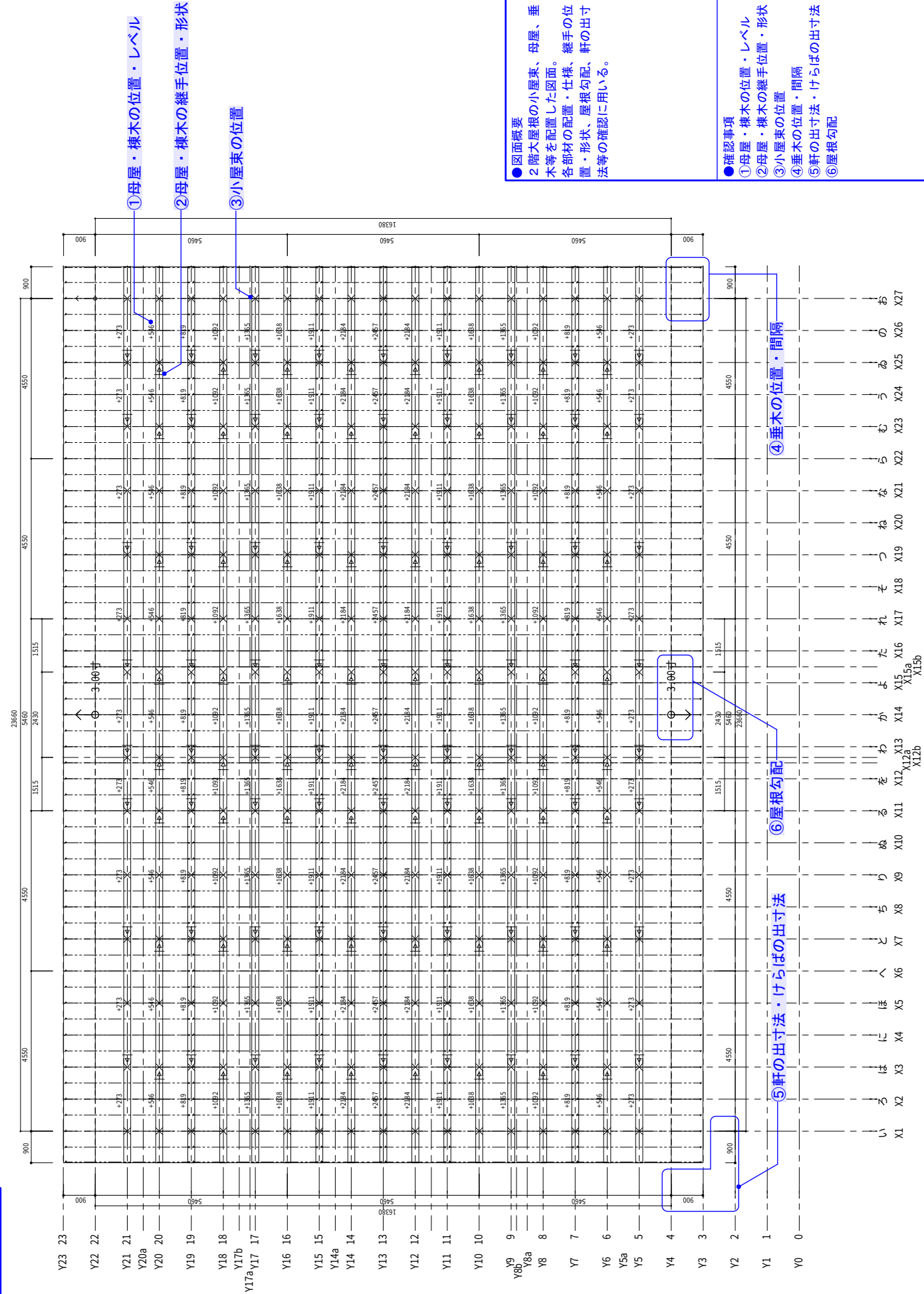
⑨軒の出寸法・けらばの出寸法

⑧垂木の位置・間隔

- 図面概要
 - 2 階大屋根、小屋梁、小屋束等を配置した図面。
 - 各部材の配置・仕様、継手・仕口の位置・形状、軒の出寸法等の確認に用いる。
- 確認事項
 - ① 柱の位置・種類
 - ② 間柱の位置・上下関係
 - ③ 横架材の位置・梁成・仕口形状
 - ④ 横架材の継手位置・仕様
 - ⑤ 接合金物の種類・仕様
 - ⑥ 小屋束の位置
 - ⑦ 火打金物の位置・仕様
 - ⑧ 垂木の位置・間隔
 - ⑨ 軒の出寸法・けらばの出寸法
 - ⑩ 特記がある材の仕様

工 事 名 称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P214
	設計者	最終更新日	2024-01-31
施 工 者	設計者	図面名称	プレカット小屋伏図
	設計者	縮 尺	A3 S=1:100
		プレカット	〇〇〇〇〇〇〇
		プレカット	〇〇〇〇〇〇〇
		設計	〇〇〇〇〇〇〇
		設計	〇〇〇〇〇〇〇

プレカット母屋伏図



工 事 名 称		JBN+PWA 木造事務所モデル		図面名称		プレカット母屋伏図		図面番号		P215	
施工者	〇〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	設計者	〇〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31		

プレカット1階耐力壁・柱頭柱脚金物図

①柱の凡例

凡 例	
	柱頭金物 柱脚金物

②柱頭柱脚金物の仕様・凡例

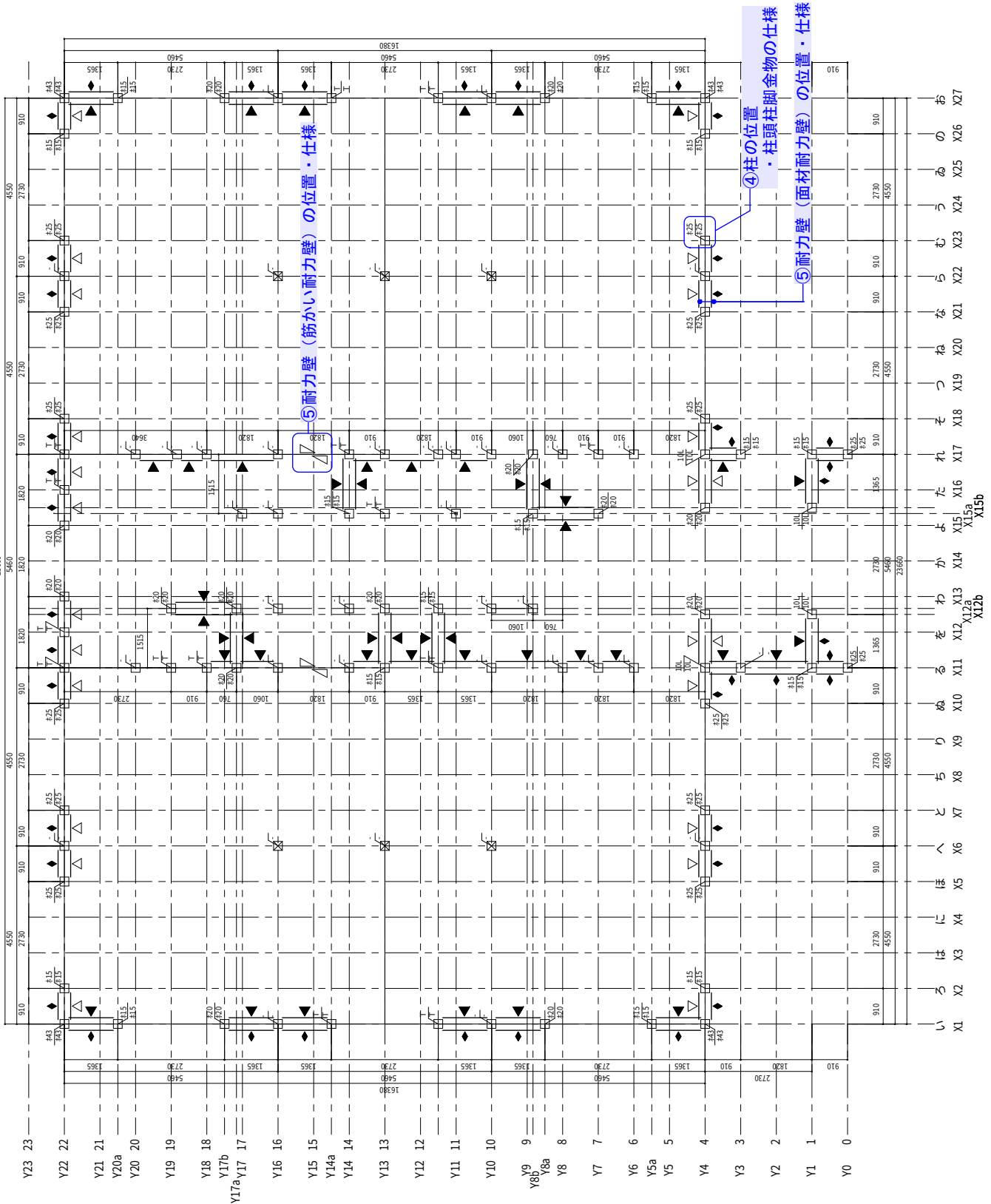
柱頭柱脚金物	
記号	金物名称
—	表記無しは柱勝
T	短び”差又はかすがい等
10L	コバ”外コーナー
#15	ホールド”ウコーナー
#20	ビ”止めホールド”ウU20KN用
#25	ビ”止めホールド”ウU25KN用
#43	ホールド”ウHi-43KN用

③耐力壁の仕様・凡例

耐力壁	
筋かい耐力壁	
筋かい (シングル)	筋かい (シングル)
ベイマツ 45×105	ベイマツ 45×105
筋かい (ダブル)	筋かい (ダブル)
ベイマツ 45×105	ベイマツ 45×105
筋かい金物	2倍筋かい (UベコIII)
面材耐力壁	
ダイライトWS t9	ダイライトWS t9
大壁2.5倍	大壁2.5倍
構造用MDF t9	構造用MDF t9
真壁床勝 2.5倍	真壁床勝 2.5倍
構造用MDF t9	構造用MDF t9
真壁床勝 4.0倍	真壁床勝 4.0倍

- 図面概要
耐力壁の位置・仕様、柱ごとの柱頭柱脚金物の位置・仕様を示した図面。
耐力壁の配置・仕様、柱頭柱脚金物の位置・仕様等の確認以外に、必要に応じて設備（配管・配線等）との干渉、ホールダウン用アンカーボルトの干渉状況等の確認にも用いる。
- 確認事項
①柱の凡例
②柱頭柱脚金物の仕様・凡例
③耐力壁の仕様・凡例
④柱の位置・柱頭柱脚金物の仕様
⑤耐力壁の位置・仕様

工事名称		JBN+PWA 木造事務所モデル		設計者		設計		プレカット		プレカット		図面名称		図面番号	
施工者	〇〇〇建設	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	プレカット1階耐力壁・柱頭柱脚金物図	P221	2024-01-31	最終更新日
												縮尺	A3 S=1:100		



プレカット2階耐力壁・柱頭柱脚金物図

①柱の凡例

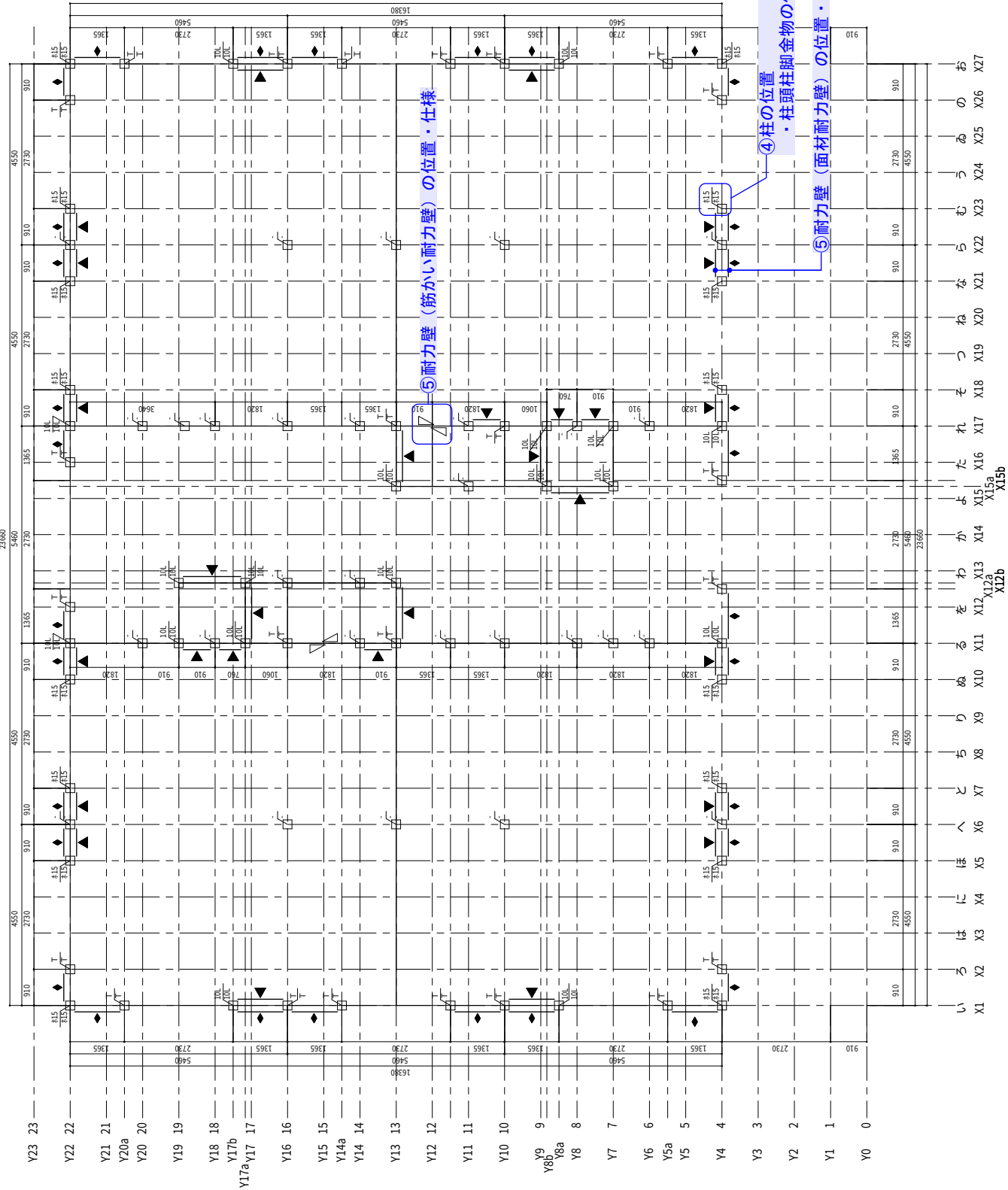
凡 例	
	柱頭金物 柱脚金物

②柱頭柱脚金物の仕様・凡例	
記号	金物名称
—	表記無しは柱勝
T	短が 差又ははかすかい等
10L	コバ 外コーナー
#15	ホールド クコーナー
#20	ビ 止めホールド クU15KN用
#25	ビ 止めホールド クU20KN用
#43	ビ 止めホールド クU25KN用
	ホールド クンHI 43KN用

③耐力壁の仕様・凡例	
筋かい耐力壁	
	筋かい (シングル) ベイマツ 45×105
	筋かい (ダブル) ベイマツ 45×105
面材耐力壁	
	ダイライトWS t9 大壁2.5倍
	構造用MDF t9 真壁床勝 2.5倍
	構造用MDF t9 真壁床勝 4.0倍

●図面概要 耐力壁の位置・仕様、柱ごとの柱頭柱脚金物の位置・仕様を示した図面。 耐力壁の配置・仕様、柱頭柱脚金物の位置・仕様等の確認以外に、必要に応じて設備（配管・配線）との干渉、ホールダウン用アンカ一ボルトの干渉状況等の確認にも用いる。	
●確認事項 ①柱の凡例 ②柱頭柱脚金物の仕様・凡例 ③耐力壁の仕様・凡例 ④柱の位置・柱頭柱脚金物の仕様 ⑤耐力壁の位置・仕様	

工 事 名 称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット2 階耐力壁・柱頭柱脚金物図	図面番号	P222
施工者	設計者	設計	プレカット	最終更新日	2024-01-31



①床面材の仕様・凡例

①床面材の仕様・凡例

		23660															
		4550		2730		910		1365		2730		4550		2730		4550	
Y23	23	910	1-243	1-242	1-241	1-240	1-239	1-238	1-237	1-236	1-235	1-234	1-233	1-232	1-231	1-230	
Y22	22																
Y21	21																
Y20a																	
Y20	20																
Y19	19																
Y18	18																
Y17b																	
Y17a	17																
Y16	16																
Y15	15																
Y14a																	

2 階床及び下屋の小屋根の水平構面を構成する床面材の仕様と割り付けを示した図面。

付けを示した図面。
水平構面の仕様・割り付け等の確認以外に、必要に応じて設備（配管・配線等）や床点検口との干渉状況等の確認にも用いる。

①床面材の仕様・凡例
②床面材の割り付け
③柱の位置

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル			図面名称	プレカット2階床面材配置図	図面番号
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	設計者	〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇	A3 S=1:100 最終更新日

凡 例	
割付グループ・列・番号	
面材の種類、釘仕様	
屋根面材	
針葉樹構造用合板 特類、2級	
910×1820×12(t)	
垂木に打ち付け (N50-@150)	

●図面概要
下屋の屋根構面を構成する屋根面材の仕様と割り付けを示した図面。

●確認事項

- ①屋根面材の仕様・凡例
- ②屋根面材の割り付け
- ③軒の出寸法・けらばの出寸法

[illegible]

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル				図面名称	プレカット下屋面材配置図	図面番号	P241
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	設計者	〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31

プレカット大屋根根材配置図

①屋根根材の仕様・凡例

凡 例	
割付グループ・列・番号	
面材の種類、釘仕様	
屋根面材	
針葉樹構造用合板 特類、2級	
910×1820×12(τ)	
垂木に打ち付け (N50-φ150)	

		23660		5460		2730		1365		4550		2730		4550		2730		910	
Y23		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y22		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y21		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y20		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y19		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y18		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y17a		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y16		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y15		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y14a		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y14		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y13		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y12		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y11		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y10		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y9		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y8a		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y8		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y7		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y6		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y5a		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y5		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y4		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y3		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y2		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y1		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730
Y0		23660	5460	2730	1365	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730	910	4550	2730

●図面概要
大屋根の屋根構面を構成する屋根面材の仕様と割り付けを配置した図面。
水平構面の仕様・割り付け方法の他、軒の出・けらばの出寸法の確認にも用いる。

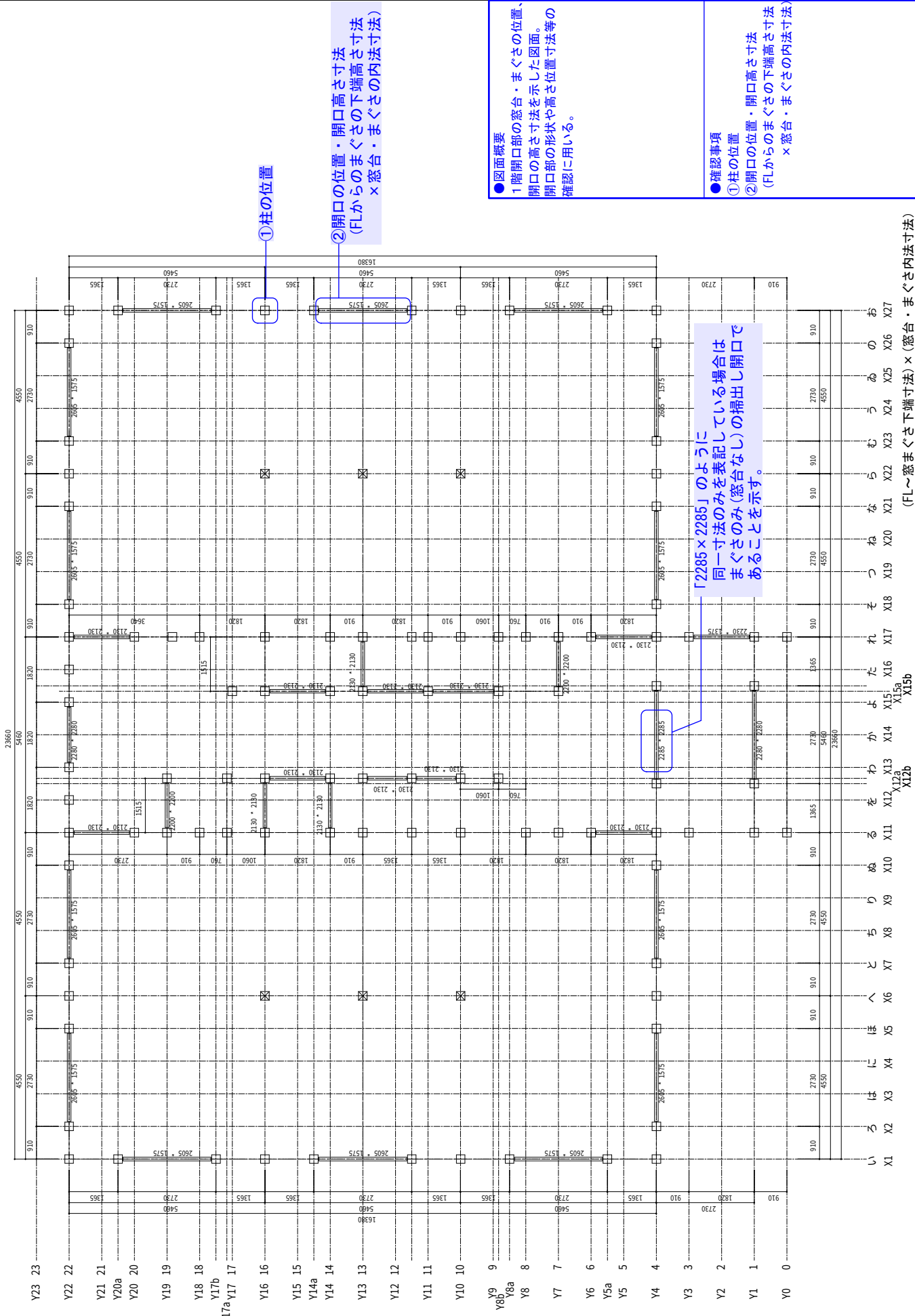
●確認事項
①屋根面材の仕様・凡例
②屋根面材の割り付け
③軒の出寸法・けらばの出寸法

②屋根面材の割り付け

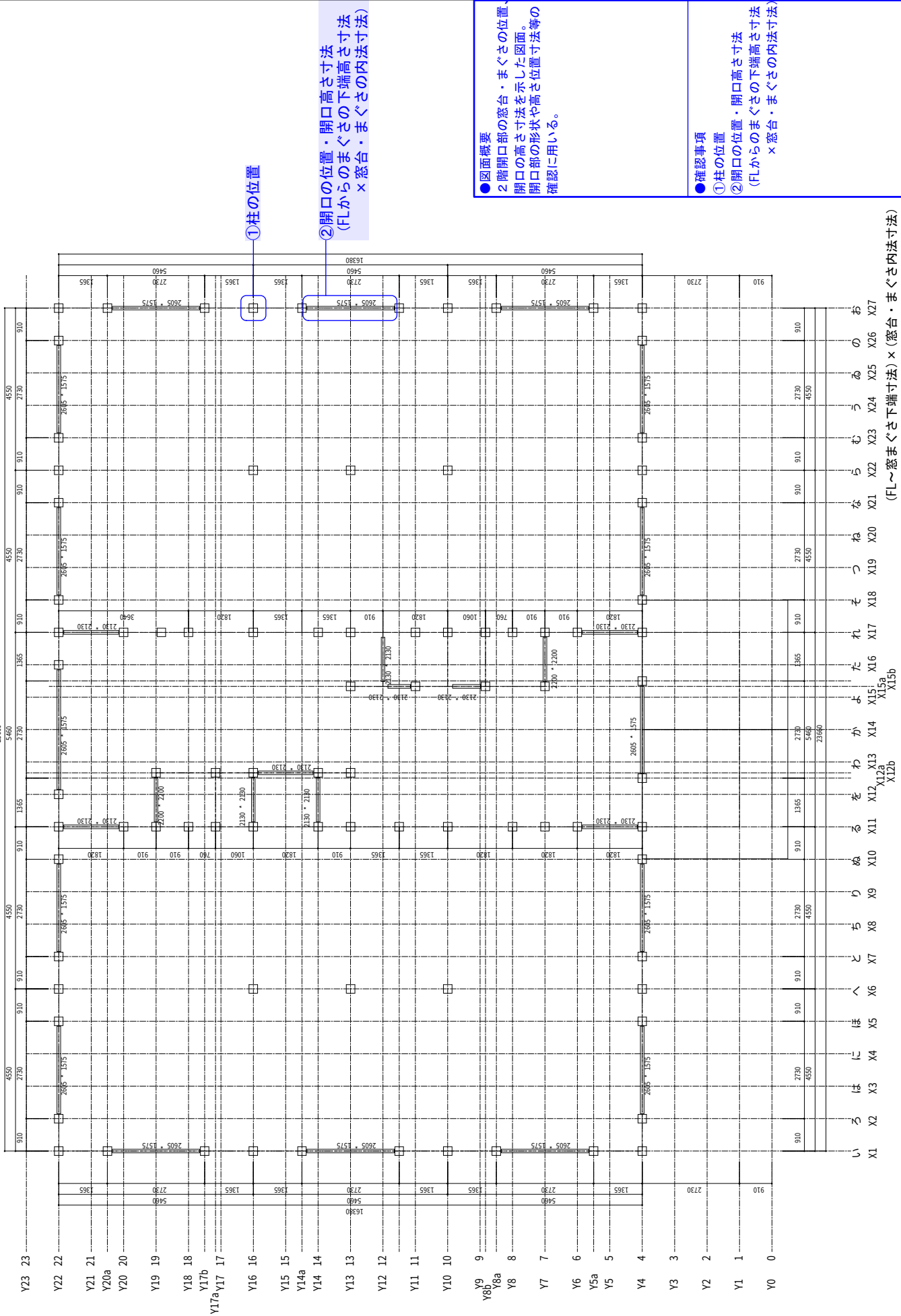
③軒の出寸法・けらばの出寸法

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット大屋根根材配置図	図面番号	P242
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:100	最終更新日	2024-01-31

プレカット1階窓材伏図



プレカット2階窓材伏図



工 事 名 称		JBN+PWA 木造事務所モデル		図面番号		P252	
施工者	設計者	設計	プレカット	縮尺	最終更新日	2024-01-31	
〇〇〇建設	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇設計	〇〇〇〇〇〇〇〇	A3 S=1:100	プレカット2階窓材伏図	2024-01-31	

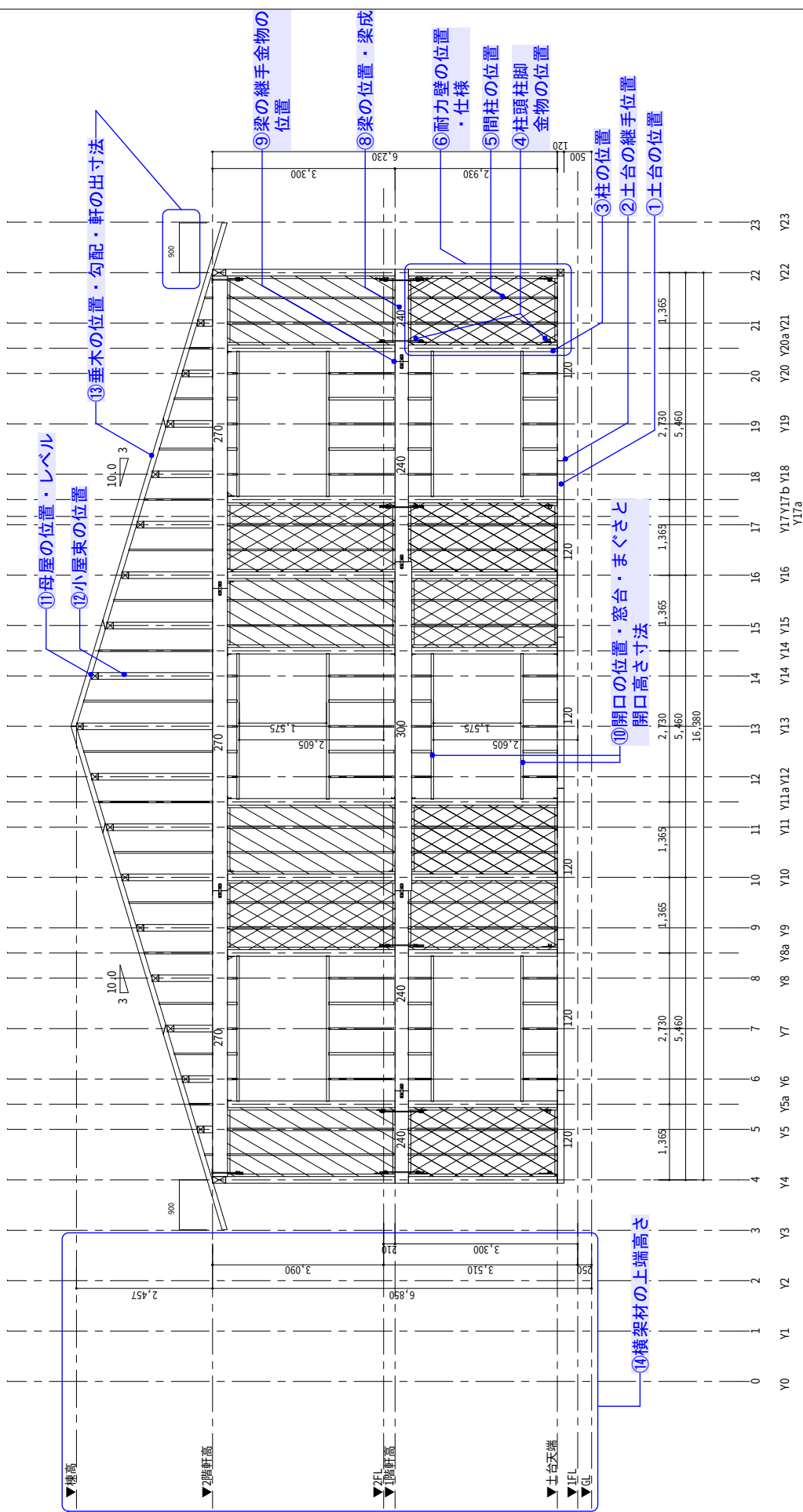
プレカット断面図1

- 図面概要
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂
直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダ
ウシ金物や羽柄材等が記載された図面。
各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部
材との納まり、継手の位置、屋根勾配、軒の
出寸法等の確認に用いる。

- 確認事項
- ①土台の位置
- ②土台の継手位置
- ③柱の位置
- ④④柱頭柱脚金物の位置
- ⑤間柱の位置
- ⑥耐力壁の位置・仕様
- ⑦耐力壁の仕様・凡例
- ⑧梁の位置・梁成・仕様
- ⑨梁の継手金物の位置
- ⑩開口位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
- ⑪母屋の位置・レベル
- ⑫小屋束の位置
- ⑬垂木・軒の出寸法
- ⑭根架材の上端高さ

- 筋かい(ダブル)
- 面材(画面)
- 面材(手前側)
- 面材(裏側)

⑦耐力壁の仕様・凡例



お通り (X27)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル				図面名称	プレカット断面図 1	図面番号	P311
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	設計者	〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット	〇〇プレカット 〇〇〇〇〇〇	A3 S=1:75	最終更新日	2024-01-31

プレカット断面図 2

●図面概要
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂
直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダ
ウン金物や羽柄材等が記載された図面。
各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部
材との納まり、継手の位置、屋根勾配、けら
ばの出寸法等の確認に用いる。

- 確認事項
- ①土台の位置
 - ②土台の継手位置
 - ③柱の位置
 - ④柱頭柱脚金物の位置
 - ⑤間柱の位置
 - ⑥耐力壁の位置・仕様
 - ⑦耐力壁の仕様・凡例
 - ⑧梁の位置・梁成
 - ⑨梁の継手金物の位置
 - ⑩開口の位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
 - ⑪垂木の位置・間隔
 - ⑫けらばの出寸法
 - ⑬横架材の上端高さ

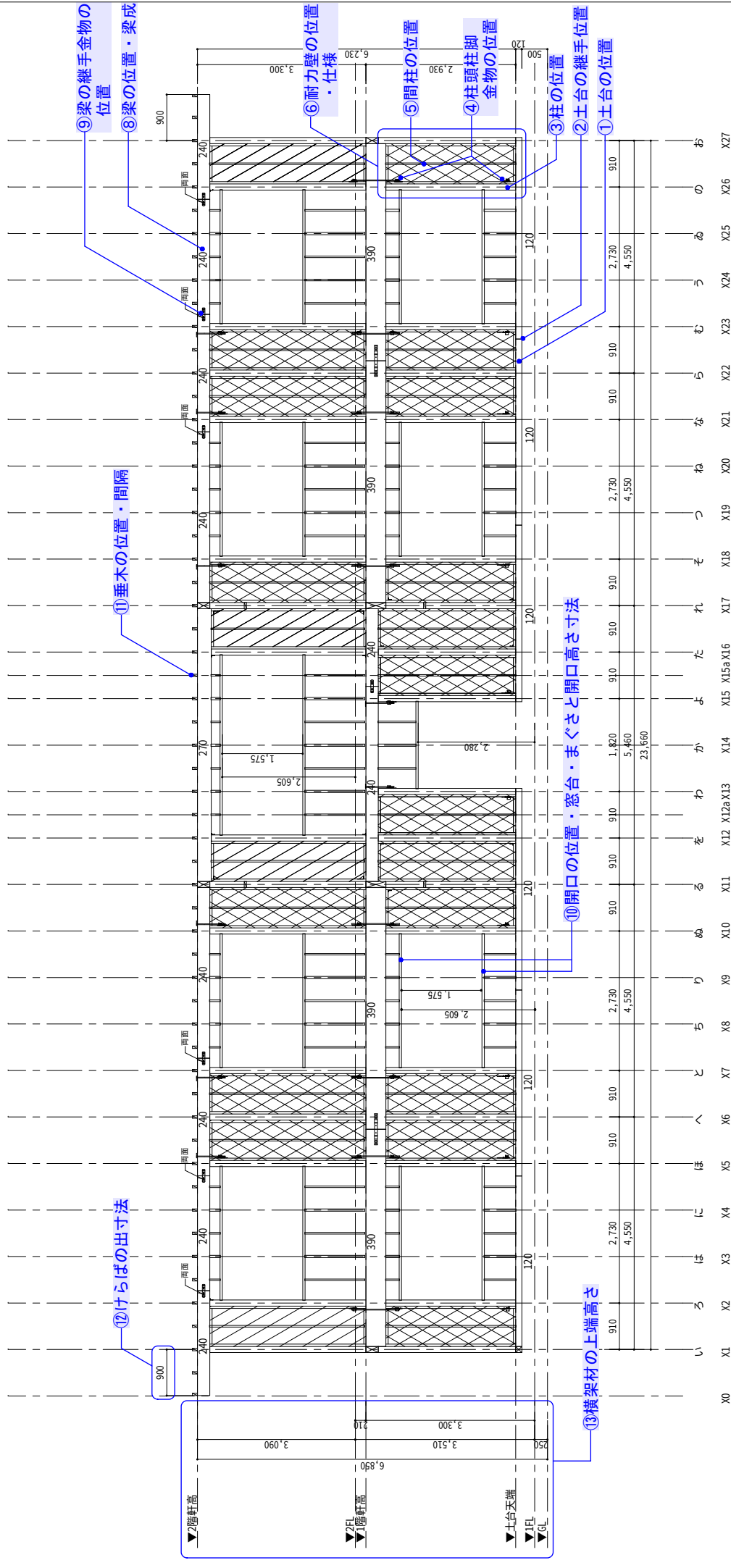
筋かい(ダブル)

面材(両面)

面材(手前側)

面材(裏側)

⑦耐力壁の位置・仕様・凡例



22通り (Y22)

工 事 名 称	JBN+PWA 木造事務所モデル		図面名称	プレカット断面図 2	図面番号	P312
施工者	〇〇建設	〇〇設計	縮尺	A3 S=1:75	最終更新日	2024-01-31
	〇〇建設	〇〇設計				

プレカット断面図 3

●図面概要
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂
直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダ
ウン金物や羽柄材等が記載された図面。
各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部
材との納まり、継手の位置、屋根勾配、軒の
出寸法等の確認に用いる。

- 確認事項
- ①土台の位置
 - ②土台の継手位置
 - ③柱の位置
 - ④柱頭柱脚金物の位置
 - ⑤間柱の位置
 - ⑥耐力壁の位置・仕様
 - ⑦耐力壁の仕様・凡例
 - ⑧梁の位置・梁成・仕様
 - ⑨梁の継手金物の位置
 - ⑩開口的位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
 - ⑪母屋の位置・レベル
 - ⑫小屋束の位置
 - ⑬垂木の位置・勾配・軒の出寸法
 - ⑭横架材の上端高さ

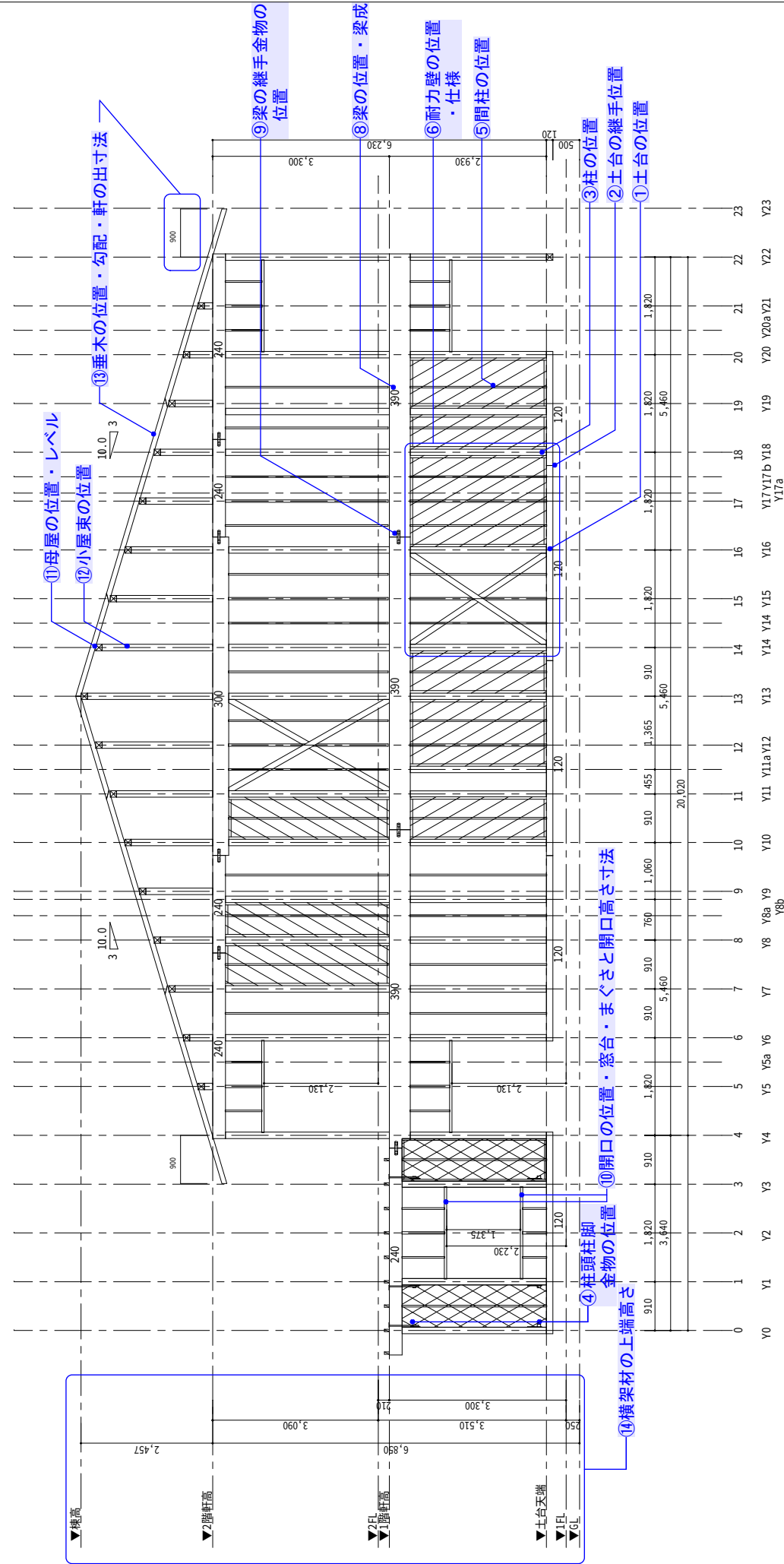
筋かい(ダブル)

面材(両面)

面材(手前側)

面材(裏側)

⑦耐力壁の仕様・凡例



れ通り (X17)

工 事 名 称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面番号	P313
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇設計 〇〇〇〇〇〇	プレカット断面図 3	
	設計者	縮 尺	
	最終更新日	A3 S=1:75	
			2024-01-31

プレカット断面図 4

●図面概要
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂
直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダ
ウン金物や羽柄材等が記載された図面。
各部分の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部
材との納まり、継手の位置、屋根勾配、けら
はの出寸法等の確認に用いる。

- 確認事項
- ①土台の位置
 - ②土台の継手位置
 - ③柱の位置
 - ④柱頭柱脚金物の位置
 - ⑤間柱の位置
 - ⑥耐力壁の位置・仕様
 - ⑦耐力壁の仕様・凡例
 - ⑧梁の位置・梁成
 - ⑨梁の継手金物の位置
 - ⑩開口的位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
 - ⑪垂木の位置・間隔
 - ⑫けらばの出寸法
 - ⑬横架材の上端高さ

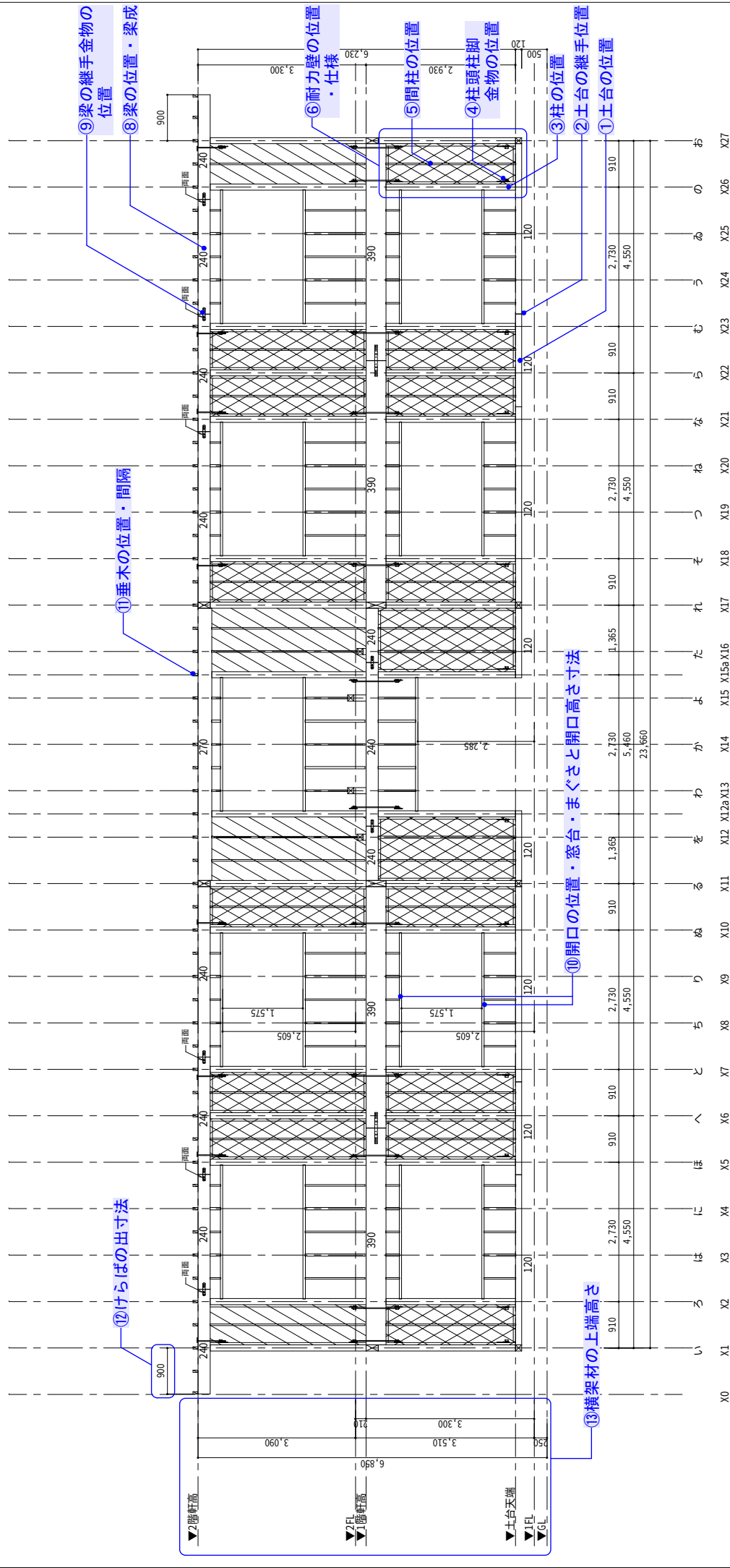
筋かい(ダブル)

面材(両面)

面材(手前側)

面材(裏側)

⑦耐力壁の位置・仕様・凡例



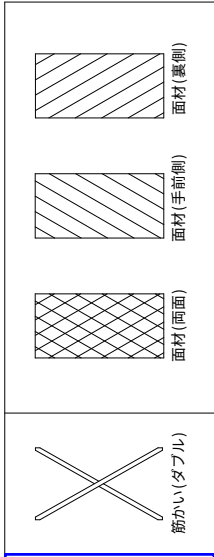
4通り (Y4)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル	図面名称	プレカット断面図 4	図面番号	P314
施工者	〇〇建設 〇〇〇〇〇〇	縮尺	A3 S=1:75	最終更新日	2024-01-31

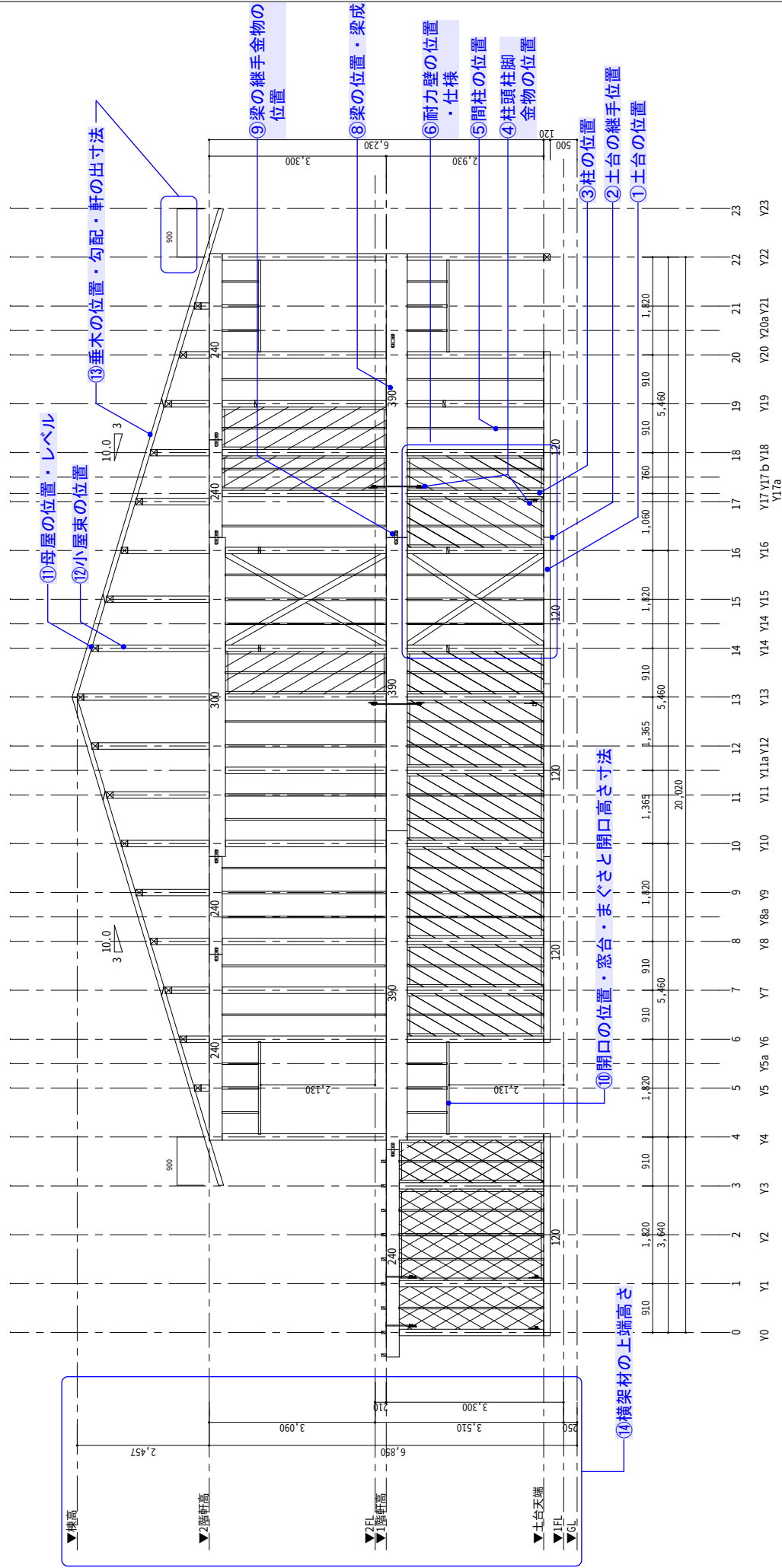
プレカット断面図 5

●図面概要
主に耐力壁を含む通りの断面図で横架材・垂直材・耐力壁・横架材の接合金物・ホールダウン金物や羽柄材等が記載された図面。
各部材の位置や高さレベル、耐力壁と周辺部材との納まり、継手の位置、屋根勾配、軒の出寸法等の確認に用いる。

- 確認事項
- ①土台の位置
 - ②土台の継手位置
 - ③柱の位置
 - ④柱頭柱脚金物の位置
 - ⑤間柱の位置
 - ⑥耐力壁の位置・仕様
 - ⑦耐力壁の仕様・凡例
 - ⑧梁の位置・梁成・仕様
 - ⑨梁の継手金物の位置
 - ⑩開口的位置・窓台・まぐさと開口高さ寸法
 - ⑪母屋の位置・レベル
 - ⑫小屋束の位置
 - ⑬垂木の位置・勾配・軒の出寸法
 - ⑭横架材の上端高さ



⑦耐力壁の仕様・凡例



る通り (X11)

工事名称	JBN+PWA 木造事務所モデル			図面名称	プレカット断面図 5	図面番号	P315
施工者	〇〇建設	〇〇〇〇〇〇	設計者	〇〇〇設計	〇〇〇〇〇〇	最終更新日	2024-01-31

No.27 木構造工事見積書

木材関連事業者等が木構造工事に係る構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等について、極力詳細に計上した見積書を作成する。

木構造工事に関連する事業者が、見積書を相互に共有することにより、材料や工事手間の数量、項目のもれの有無、金額、調達ルート等について、効率的に把握することが可能となる。

【No.27】木構造工事見積書

●図書概要
木材関連事業者が木構造工事係る構造材、
羽柄材、加工費、運賃、金物等について、極
力詳細に計上した見積書を作成する。

●確認事項
①見積項目(構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等)
②1本拾いによる構造材の部材名・品名(樹種等)・等級・材寸・数量・材積
③1本拾いによる羽柄材の部材名・品名(樹種等)・等級・材寸・数量・材積
④加工費、プレカット図作成費用
⑤金物の種類、仕様・規格・数量

①見積項目(構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等)

物件番号 00000 - 000000
見積No. 00000000
作成日 〇年〇月〇日

物件名	御中
	240.00坪

株式会社 ○○○○

〒000-0000 ○○県○○市○○ ○-○-○
TEL 000-000-0000 FAX 000-000-0000

担当営業	検印

御見積合計金額 ¥00,000,000- (税別)

No	品 名	材積(m³)	金額(税別)	備 考
1	構造材	69.624		
2	羽柄材			
3	加工費			
4	運賃			
5	金物			
6				
7				
8				
9				
10				
合計			69.624	0
		消費税(10%)		
		総合計		

有効期限 作成日より1ヵ月
備考 ※特殊加工のある場合、別途料金がかかります。
※本見積書で取り扱う全ての木材は、クリーンウッド法に基づき合法性が確認された木材とします。

②1本拾いによる構造材の部材名・品名(樹種等)・
等級・材寸・数量・材積

2/5

【構造材】

No.	部材名	品名	等級	材寸	数量	材積	単位	単価	金額(税別)	備考
1	土台	桧KD	特等	4000×120×120	41	2.3616	本			
2	大引	杉KD	特等	4000×90×90	94	3.0456	本			
3	梁桁	杉KD	特等	4000×120×240	26	2.9952	本			
4	梁桁	杉KD	特等	4000×120×150	47	3.384	本			
5	梁桁	杉KD	特等	3000×120×240	25	2.16	本			
6	梁桁	杉KD	特等	3000×120×210	2	0.1512	本			
7	梁桁	杉KD	特等	3000×120×150	8	0.432	本			
8	梁桁	杉KD	特等	3000×120×120	3	0.1296	本			
9	梁桁	米松集成	JAS	5000×120×390	8	1.872	本			E135
10	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	6000×120×390	54	15.1632	本			
11	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	6000×120×300	14	3.024	本			
12	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	6000×120×270	8	1.5552	本			
13	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	5000×120×390	8	1.872	本			
14	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	5000×120×300	20	3.6	本			
15	梁桁	ハイブリットビーム	対E120	5000×120×270	32	5.184	本			
16	母屋・棟木	杉KD	特等	4000×120×120	142	8.1792	本			
17	管柱	桧KD	特等 背割ナシ	4000×120×120	87	5.0112	本			
18	管柱	桧KD	特等 背割ナシ	3000×120×120	98	4.2336	本			
19	特殊柱	米松集成	JAS	4000×120×120	4	0.2304	本			E135
20	特殊柱	米松集成	JAS	3000×120×120	2	0.0864	本			E135
21	小屋束	杉KD	特等	4000×120×120	86	4.9536	本			
								小計		

③1本拾いによる羽柄材の部材名・品名(樹種等)・
等級・材寸・数量・材積

3/5

【羽柄材】

No.	部材名	品名	等級	材寸	数量	材積	単位	単価	金額(税別)	備考
1	垂木	スギKD	特等	4000×45×90	246	0.0162	本			
2	間柱	スギKD	特等	3000×45×120	383	0.0162	本			
3	窓台まぐさ	スギKD	特等	4000×45×120	125	0.0216	本			
4	床合板	針葉樹構造用合板		24×910×1820	227		枚			
5	野地合板	針葉樹構造用合板		12×910×1820	317		枚			
6	壁	構造用パーティクルボード		9×910×3030	136		枚			
7	壁	ダイライトMS		9×910×3030	220		枚			
8	プレカット	垂木加工			240		坪			
9	プレカット	間柱加工			240		坪			
10	プレカット	窓台まぐさ加工			92		本			
11	プレカット	床合板加工			227		枚			
12	プレカット	野地合板加工			317		枚			
小計										

【加工費】

No.	品名	数量	単位	単価	金額(税別)	備考
1	基本加工費	240	坪			
2	プレカット図作成費	240	坪			
3	ケラバ落し	45	ヶ所			
4	金物工法ハイブリット加工	1	式			
				小計		

【運賃】

No.	品名	数量	単位	単価	金額(税別)	備考
1	運搬費	1	式			
				小計		

⑤金物の種類、仕様・規格・数量

【金物】

No.	品名	記号	呼び寸	数量	単位	単価	金額(税別)	備考
1	羽子板ボルト	腰高	280	500				
2	六角ボルト・ナット	M12	125	91				
3	六角ボルト・ナット	M12	150	481				
4	六角ボルト・ナット	M12	165	158				
5	六角ボルト・ナット	M12	255	8				
6	六角ボルト・ナット	M12	330	4				
7	六角ボルト・ナット	M12	420	12				
8	座金	ばね付き		1300				
9	両引き羽子板		130	20				
10	ビス止め短冊	10kN	300	93				
11	HDJ	25kN		5				
12	火打金物	HB		186				
13	L型柱金物	5.07kN		208				
14	10kN金物	10L		44				
15	15kNホールダウン金物			62				
16	20kNホールダウン金物			28				
17	25kNホールダウン金物			28				
18	43kNホールダウン金物			8				
19	偏心座付きボルト	M16		40				
20	両引きボルト	M16	800	43				
21	かすがい			400				
22	垂木止め	ビス		200				
小計								

No.28 施工図(基礎関連図書)

実際に建物を施工する場合には設計図だけでは情報が不十分であるため、施工に必要な詳細情報を記載した施工図を作成する。

関連する工事関係者間で施工図を共有することにより、適確な数量の把握や間違いのない効率的な工事の進行につながる。

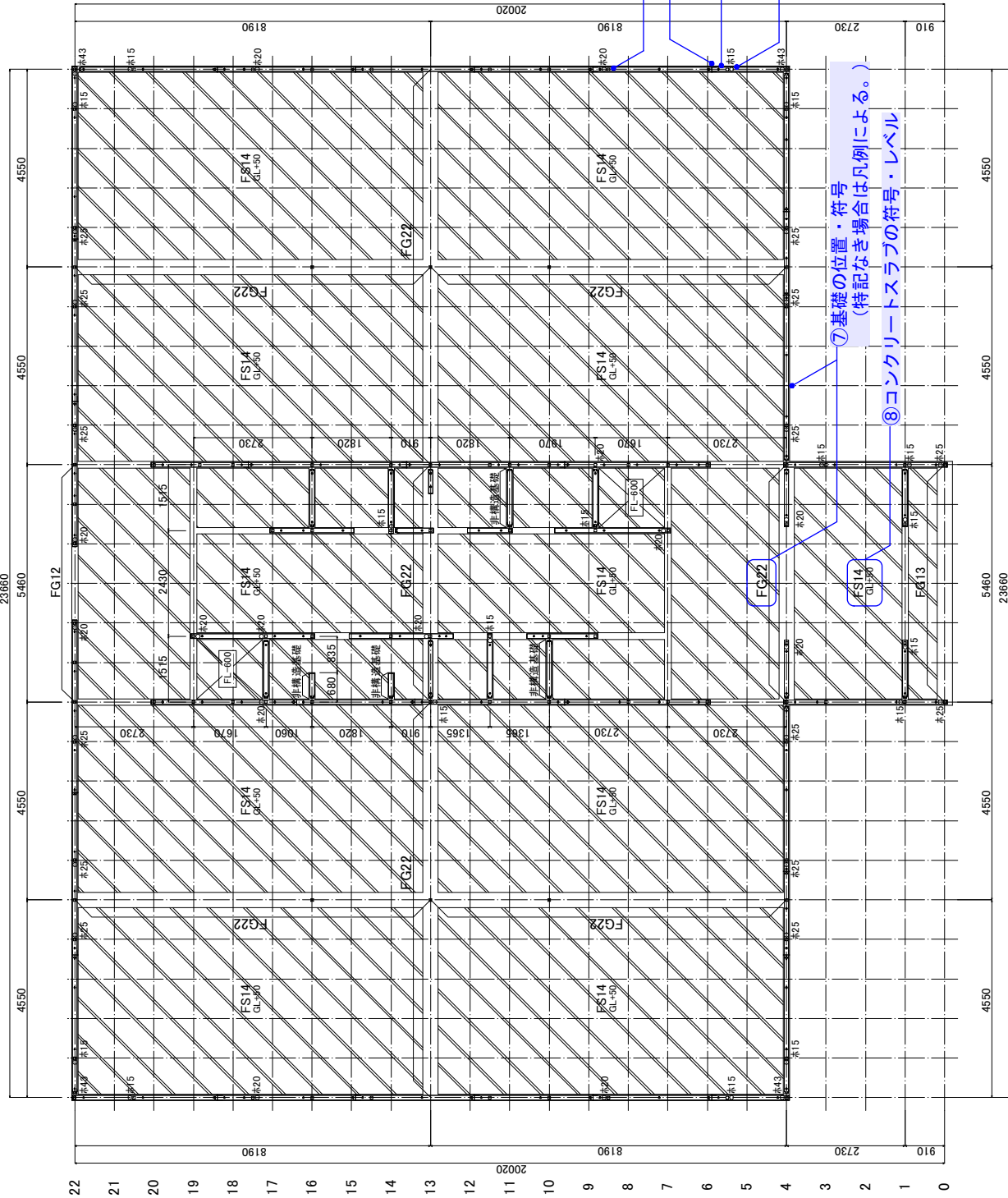
本手引きでは、代表例としてRC造と木造が取り合う建物精度にかかわる重要な箇所である基礎関連の施工図を示す。

K-01 基礎伏図

K-02 アンカーボルト伏図

K-03 基礎詳細図

基礎伏図



①基礎の仕様・符号

基礎伏図について特記なき場合下記による

- 基礎名称 外周地中梁 FG11
内部立上り FG21
- コンクリート種類 Fc-21
- 鉄筋種類 SD-295
- 地盤の調査方法
スクリーンウェイト貫入試験
地盤の種類 第2種
許容地耐力 30.0kN/m²
- 基礎の位置は、芯振分けとする
- アンカーボルトは柱から200mmとする。凡例：●
土台の継手、仕口部分から200mmに配置する。
その他、土台長さ2.0m以内に配置する。

凡例 ②ホールダウン金物の仕様・凡例

シンボル	部位	寸法	数量
○ #15	15kNホールダウン金物	—	17
○ #20	20kNホールダウン金物	—	14
○ #25	25kNホールダウン金物	—	14
○ #43	43kNホールダウン金物	—	4

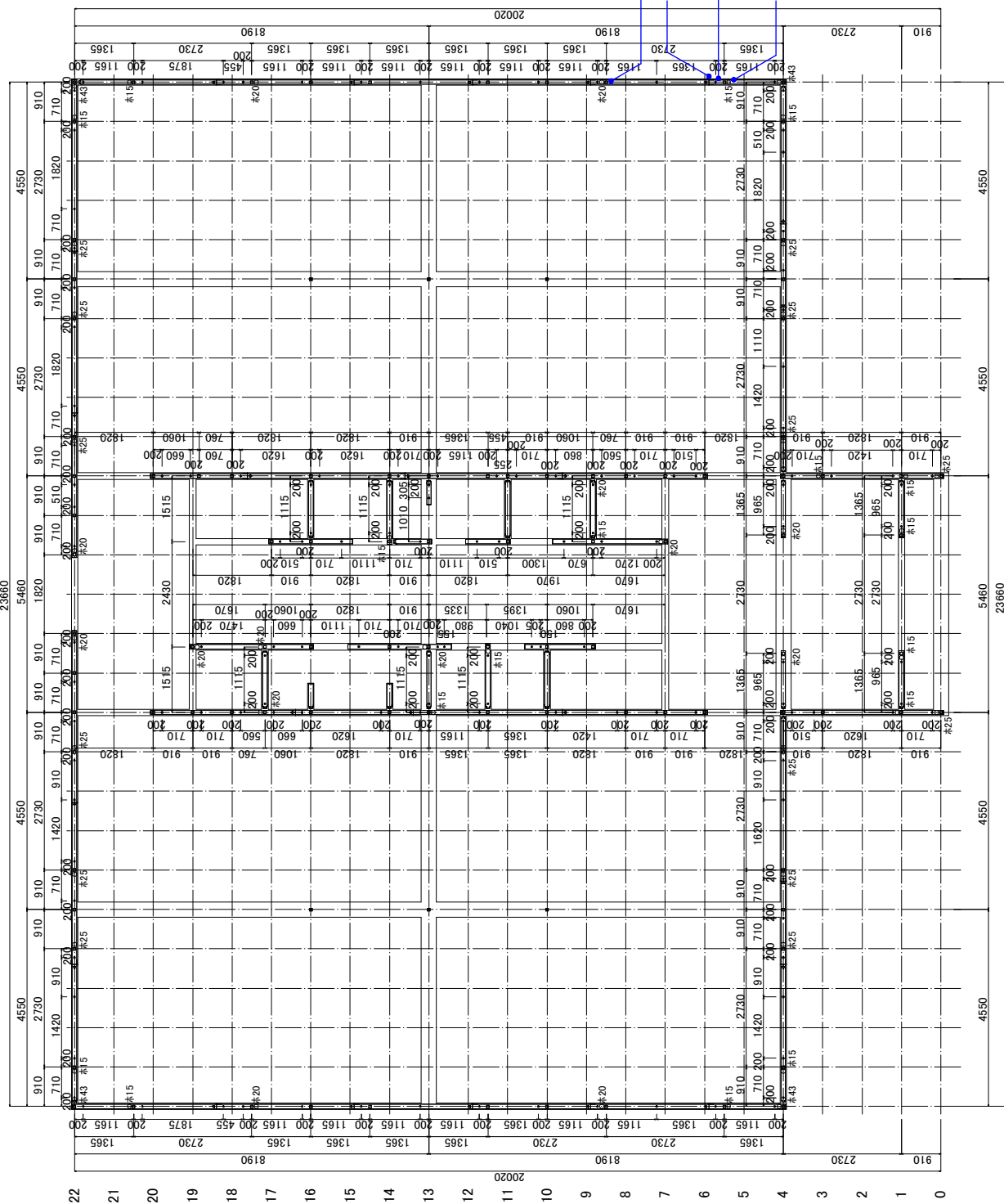
●作成概要
設計図書（構造図）を元に基礎、土台、各種金物の位置・仕様、継手・仕口の位置・形状等を明示した図面を作成する。
本図面を元にコンクリート工事と木工事の関係者が情報共有することが重要である。
確実な施工を行うための情報が盛り込まれている場合には、設計図書（構造図）で代用する場合もある。

- 記載事項
①基礎の仕様・符号
②ホールダウン金物の仕様・凡例
③柱の位置
④土台の位置・継手位置・仕口位置
⑤アンカーボルトの位置・仕様
⑥ホールダウン金物の位置・仕様
⑦基礎の位置・符号
⑧コンクリートスラブの符号・レベル

- ③柱の位置
- ④土台の位置・継手位置・仕口位置
- ⑤アンカーボルトの位置・仕様
- ⑥ホールダウン金物の位置・仕様
- ⑦基礎の位置・符号（特記なき場合は凡例による。）
- ⑧コンクリートスラブの符号・レベル

い ろ は に ほ へ と ち り ぬ る を わ か た れ そ つ ね な ら む う ゐ の お

アンカーボルト伏図



い ろ は に ほ へ と ち り ぬ る を わ か た れ そ つ ね な ら む う ぬ の お

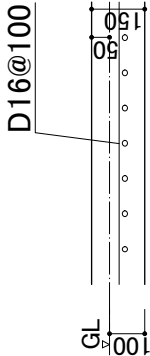
①柱・ホールダウン金物の仕様・凡例

シンボル	部位	寸法	数量
□	通し柱	--	--
□	柱	--	--
⊠	特殊柱	--	--
○ #15	15kNホールダウン金物	--	17
○ #20	20kNホールダウン金物	--	14
○ #25	25kNホールダウン金物	--	14
○ #43	43kNホールダウン金物	--	4
◎	アンカーボルトM12 埋込み長250mm以上 柱芯より250mm以内に配置 土台の継手・仕口部分から200mmに配置する。 その他、土台長さ2.0m以内に配置する。		

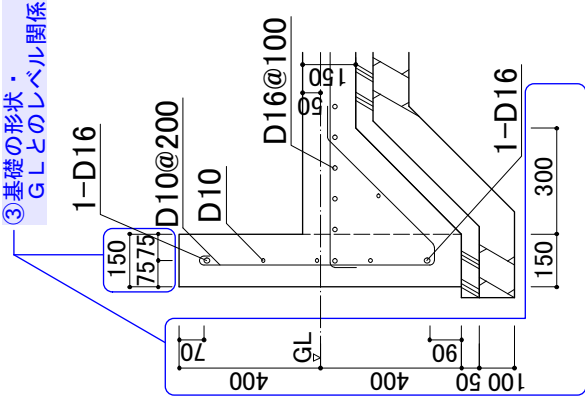
※ホールダウン金物のアンカーボルト位置はメーカーカタログを参照し配置する。

- 作成概要
基礎伏図上に土台及びアンカーボルトの位置・仕様を明示した図面を作成する。
アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響を与えるため、本図面を用いて慎重に施工管理を行うことが重要である。
- 記載事項
①柱・ホールダウン金物の仕様・凡例
②柱の位置
③土台の位置・継手位置・仕口位置
④アンカーボルトの位置・寸法・仕様
⑤ホールダウン金物の位置・仕様

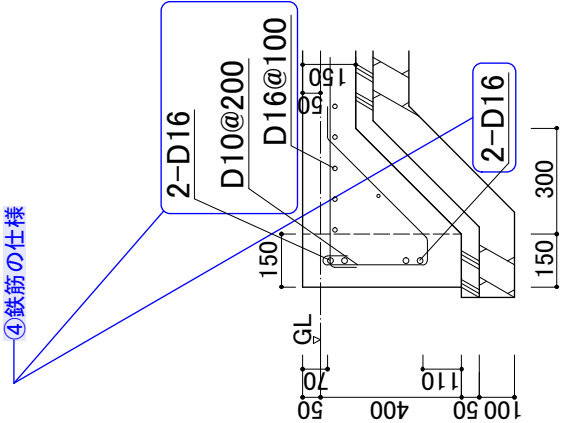
基礎詳細図



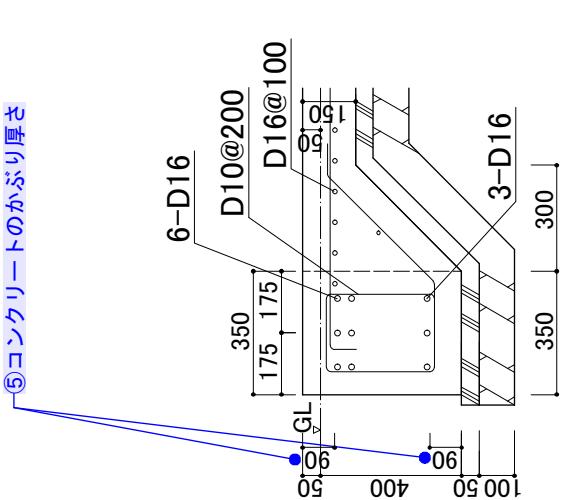
FS14 ①スラブの符号



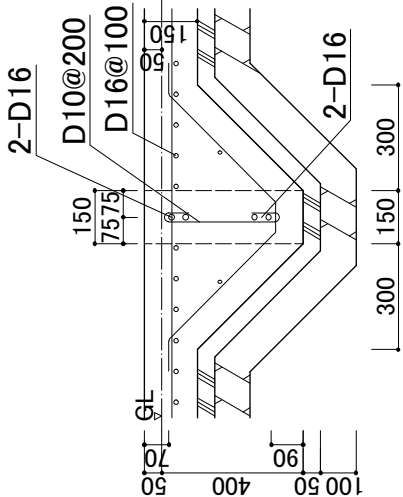
FG11 ②基礎の符号



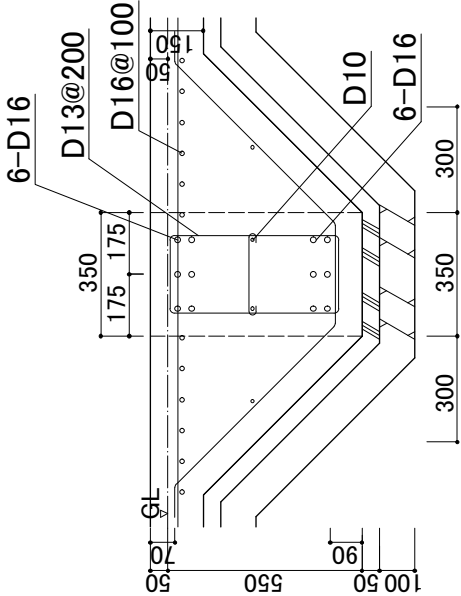
FG12



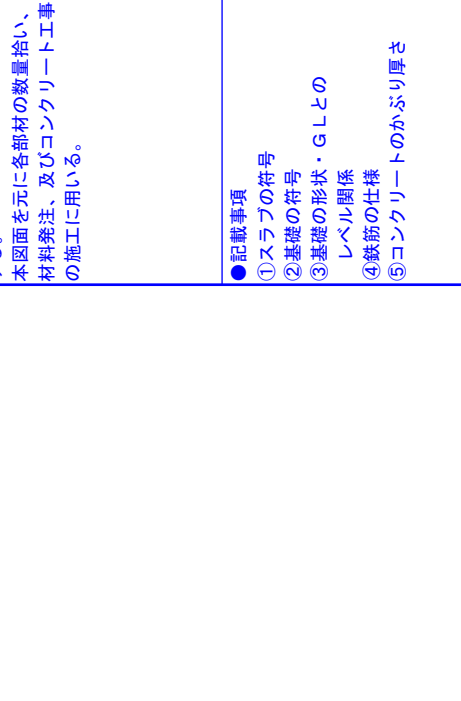
FG13



FG21



FG22



FG23

●作成概要

基礎及びスラブの断面形状、コンクリートのかぶり厚さを含む。
 配筋の詳細を明示した図面を作成する。
 本図面を元に各部材の数量拾い、材料発注、及びコンクリート工事の施工に用いる。

●記載事項

①スラブの符号
 ②基礎の符号
 ③基礎の形状・G Lとのレベル関係
 ④鉄筋の仕様
 ⑤コンクリートのかぶり厚さ

凡例	NAME OF WORK JBN+PWA 木造事務所モデル	DATA 2023. 10	SIGN	SCALE A3 S=1:15	NO K-03
	承認	承認	変更履歴	NAME OF PLAN 基礎詳細図	JBN+PWA

No.37 材料の合法性確認書類(出荷証明書)

発注者から要望があった場合等、必要に応じて木材関連事業者に合法的に伐採された木材であることが確認できる書類の作成を依頼する。

令和〇年〇月〇日

出 荷 証 明 書

株式会社 ○○○○ 殿

〒○○○-○○○○
 ○〇県〇〇市〇〇町〇-〇-〇
 TEL○○○-○○○-○○○○
 株式会社 ○○○○○
 代表取締役 ○〇 ○〇
 認定番号 第○○○号

下記の出荷した木材は、クリーンウッド法に基づき合法性が確認された木材です。

物件名	○○○○新築工事
元請業者名	〇〇建設 株式会社
出荷日	令和〇年〇月〇日

樹種	等級	製品寸法	数量	材積	備考
桧 KD	特等	4000 × 120 × 120	41	2.3616	
杉 KD	特等	4000 × 90 × 90	94	3.0456	
杉 KD	特等	4000 × 120 × 240	26	2.9952	
杉 KD	特等	4000 × 120 × 150	47	3.384	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 240	25	2.16	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 210	2	0.1512	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 150	8	0.432	
杉 KD	特等	3000 × 120 × 120	3	0.1296	

No.38 施工フロー

着工前準備から施工計画、材料調達、施工に至る作業内容とその手順の概要を整理し、各手順において連携する木造建築関連事業者と連携する内容(役割分担)を明確にしたフローを作成する。

本フローを連携する全ての木造建築関連事業者が共有することにより、役割分担、作業手順が明確になり、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。

【No.38】施工フロー

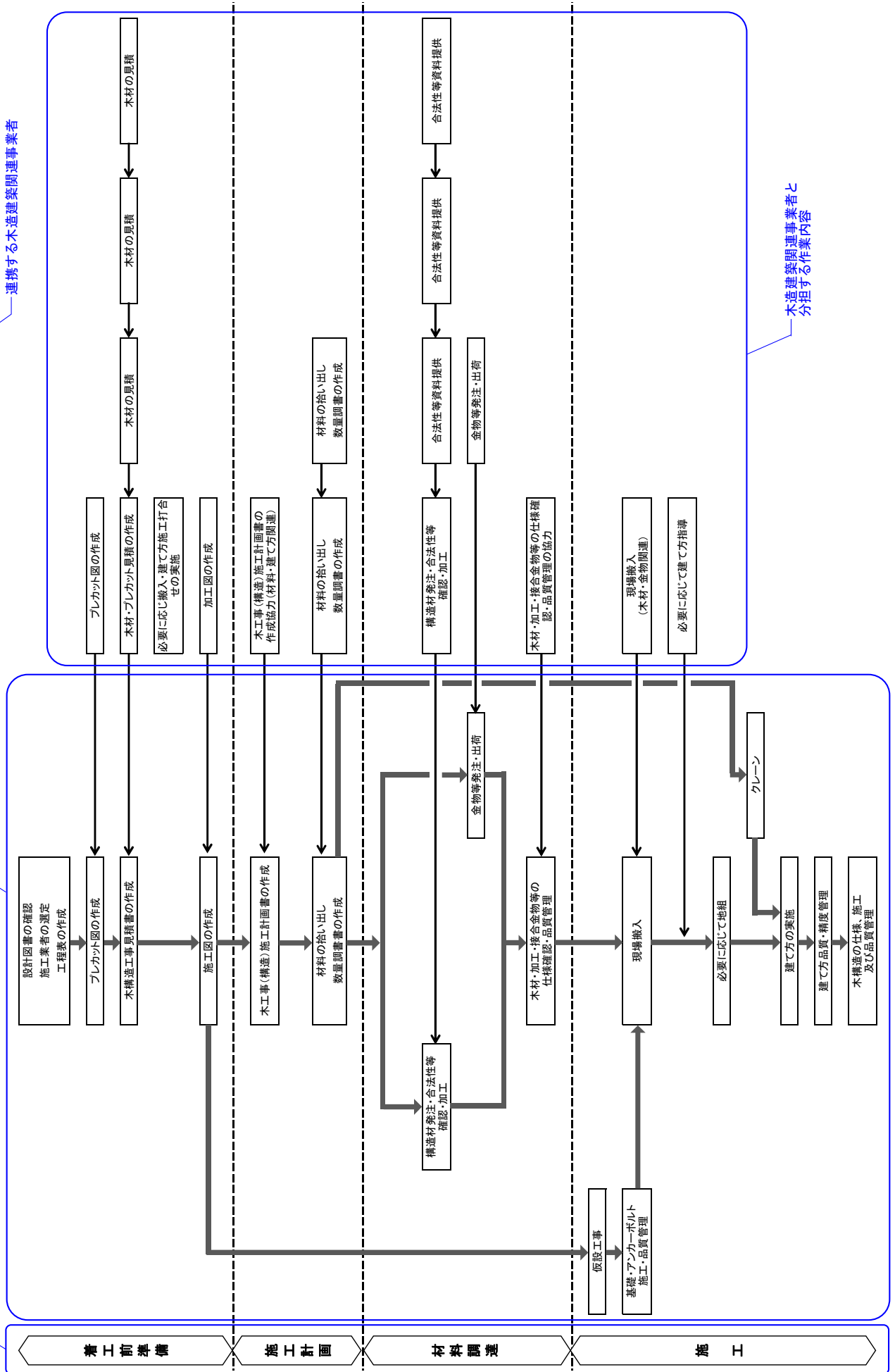
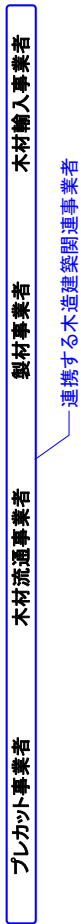
※本フローは連携方法の一例であり、建物規模、工事内容、地域工務店等の特性等により多様なケースがあると考えられます。

凡例

← : 木造建築関連事業者(木造パートナー)による連携

工事の段階

木工事(構造)の作業内容と手順



No.49 建て方計画図

当該工事の規模・形状・敷地及び工程等の諸条件を踏まえ、建て方が円滑かつ安全に進み、品質を確保できるよう、資材や地組のスペース、重機の配置、揚重計画等を総合的に計画する。

本計画図を建て方に関わる全ての工事関係者が共有することにより、品質、工程、工期、安全の適確な管理につながる。



●記載事項

- ①仮設鉄板敷き部分
- ②重機据え付け位置
- ③架空電線の位置
- ④最遠部の作業半径時の吊り荷重量
- ⑤最大吊り荷重時の作業半径
- ⑥荷重降ろし位置・地組スペース
- ⑦重機廻りの立ち入り禁止区域
- ⑧建て方手順

凡例	承認	承認	承認	象星図型	NAME OF WORK JBN+PWA 本造事務所モデル NAME OF PLAN JBN 2022. 12 建て方計画図	DATA	SIGN SCALE A3 S=1:150	NO. TK-00
----	----	----	----	------	---	------	-----------------------------	--------------

第7章

施工管理図書作成にかかる
記載事項及び留意事項等

第7章 施工管理図書作成にかかる記載事項及び留意事項等

本章では、各種施工管理図書を作成するにあたり記載が必要となる事項や作成時の留意事項等について、添付図書を中心に補足解説を行っています。また、一部木構造工事の施工管理の要点についても触れています。実物件にて図書を整備する際の参考として下さい。

着工前準備

◎総合施工計画書

3 工程表 (No. 6)

- ・バーチャート工程表の作成を基本とする。
- ・工程は、工事科目ごとに記載し、検査関係の予定も記載する。
- ・木材調達や各種施工管理図書の作成等、着工前の準備期間も含めて作成する。
- ・着工日、上棟日、軸組完了日、内装工事着手日、建物完成日、竣工引渡日等、工事の節目となる期日び実績を記載できるようにする。
- ・発注者指定の様式がない場合は、自社の様式を使用する。

8 仮設計画

8.1 総合仮設計画図 (No. 24)

- ・総合仮設計画図には、以下の事項を記載する。
- ・指定仮設がある場合は、図面に指定仮設と明記すること。

記載項目	記載内容	留意事項
①仮囲い・門扉(ゲート)	位置・高さ・仕様等	・敷地と道路の形状や交通量を確認した上で、出入りしやすく危険の少ない位置に設置する。 ・ゲートや出入口は施錠できる構造とする。 ・工事車両が出入りするゲートは車両用と人用を区別して設置することが望ましい。 ・通行人や交通量が多い場合には回転表示灯を設置する。 ・ミキサー車、ポンプ車、ラフタークレーン等の大型車両が出入りする際は交通誘導警備員を配置する。 ・ゲート部の路面には道路管理者との協議の状況に応じて仮設鉄板を設置する。 ・仮囲いへの開口部の設置、騒音・振動計の設置、完成予想図等の設置等、発注者から条件が提示される場合もあり。
②場内通路・各種スペース	位置・規模・仕様等	・位置・仕様・設置期間によっては地盤改良が有利な状況もあり。
③荷揚げ計画(建て方用荷揚げを計画含む)	クレーン据え付け位置・構台設置位置	・構造・仕様は別紙可 ・移動式クレーンの作業半径・揚程に関する性能を確認する。

④建物外部足場	輪郭がわかるもの	・詳細は足場計画図にて記載可
⑤屋根材の現場成型場所	構造及び位置(足場)	・必要に応じて記載すること
⑥仮設建物	現場事務所・作業員休憩所・トイレ	・外形のみでも可。但し別紙詳細を作成すること。 ○現場事務所 ・工事の邪魔にならない場所かつ、現場全体を見通せる位置に設置することが望ましい。 ・作業員詰所は異業種間のコミュニケーションを重視して大部屋方式とすることが望ましい。 ・一般的には解体が容易なプレハブで建てるが多いが、敷地に余裕がない場合は近隣のビルや建物の一室を借りることもあり。 ○トイレ ・男子用に加えて、女子用を設け、国土交通省標準仕様の快適トイレとすることが望ましい。
⑦資材等仮集積場	位置・区画・仮囲い等	・資材ストックヤードを設け、建て方時には、資材搬入及び地組を行うエリアとして利用することを検討する。 ・工事規模・内容に応じた規模の倉庫及び産廃コンテナを配置する。
⑧地業・掘削位置	地業・掘削位置 基礎掘削の動線	・複雑な場合は、別に地業・掘削位置図を作成し、仮設計画との干渉を確認すること
⑨各種看板類	位置図	・法令で規定されたもの等（建設業の許可票・施工体系図・労災保険関係成立票・確認済の表示板・道路使用許可証（必要な場合）等）
⑩仮設給水	給水位置	・仮設給水は現場事務所、作業員詰所付近に設置し、トイレの手洗いも兼ねる。 ・杭工事など給水が大量に必要な時は、杭施工時にディープウェルを設置
⑪仮設電力	分電盤位置	・分電盤は現場事務所や現場に近接した場所に設置する。雨がかからないよう配慮し、取扱責任者を明示する。 ・引込容量は電灯（100V）動力（3φ200V）を合わせて50KVAの場合、それぞれ50KVAの場合があり、地域によって異なるため注意が必要
⑫支障物の撤去及び移設等	地中障害物、解体建物等	・必要に応じて記載すること。
⑬その他安全等に 必要な設備	隣地に対する養生等	・必要に応じて記載すること。

8.2 足場計画図 (No. 25)

- ・ 足場の高さが 10m 以上かつ設置期間 60 日以上の場合は、足場の設置届を労働基準監督署に提出する。
- ・ 足場の基本割付寸法、建物からの標準的な離れ寸法、昇降設備位置、頭つなぎの位置等を明示する。
- ・ 荷揚げ構台が必要な場合は記載する。
- ・ 建て方前と建て方後で設置のタイミングが異なる足場がある場合は、区分を明示することが望ましい。
- ・ 中大規模木造建築では、庇の出が大きいケースがあり、庇先端の作業と屋根からの転落防止の検討が必要となる。足場を庇下まで二重に設置するか、幅広の足場を設置し、庇の外側に足場を庇上まで立ち上げることが考えられる。軒先の手摺の高さは、庇より 1.0m 以上立ち上げる。
- ・ 内部の天井が高い場合は、内部足場図を別途作成する必要がある。
- ・ その他、安全性確保のため、以下についても留意し、記載する。
 - 作業床の幅は 40cm 以上（狭い場合は 24cm）
 - 足場の下に敷き板等の設置
 - 根がらみの設置
 - 最下段の作業床は地盤面から 2.0m 以下（2 本組は 2.3m 以下）
 - 壁つなぎや控えの設置
 - 隅角部への火打ち材の設置
 - 筋かいは 45 度とし、全層全スパンに設置
 - 転落防止措置（手摺、足場ネット、巾木、建物との離れ 30cm 以下、屋根から 1.0m 以上など）の厳守
 - 手摺高は 75cm 以上 90cm 以下とし、90cm 超の場合は中棧を設置
 - 屋根面手摺は 75cm 以上かつ中棧の設置

◎総合施工計画書関連図書

9 プレカット図 (No. 26)

- ・プレカット図は、プレカット工場での加工や現場の組立時に参照される加工図であるが、近年、中大規模木造建築の普及促進が進む中、在来軸組工法の中大規模木造建築ではプレカット図が、施工図の役割を果たす必要性が発生している。
- ・施工図の役割を果たすプレカット図として、標準図系（凡例図、仕様書）、平面図系（伏図、耐力壁・柱金物図、面材配置図、窓材伏図）、断面図系（断面図）の各図書を作成する。

10 木構造工事見積書 (No. 27)

- ・見積項目は、構造材、羽柄材、加工費、運賃、金物等とし、極力詳細に計上した見積書を作成する。
- ・構造材、羽柄材を1本拾いで計上し、部材名、品名（樹種等）、等級、材寸、数量、材積を記載する。
- ・金物は、種類、仕様・規格ごとに計上する。

11 施工図 (No. 28)

- ・本手引きでは、木構造工事と関連性の高い図書として、基礎伏図、アンカーボルト伏図、基礎詳細図を掲載している。
- ・アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響し、慎重な施工管理が必要となるため、アンカーボルトの位置を寸法で示したアンカーボルト伏図を作成する。

◎木工事（構造）施工計画書

5 材料調達

数量調書（No. 36）

- ・本手引きでは見積項目として木材、金物の数量を計上している木構造工事見積書（No. 27）と兼用する。

材料の合法性確認書類（No. 37）

- ・「合法伐採木材等の流通及び利用の促進に関する法律（通称「クリーンウッド法」）」では、我が国又は原産国の法令に適合して伐採された樹木を材料とする木材・その製品の流通及び利用を促進することを目的として、木材関連事業者や国が取り組むべき措置等について定めている。
- ・本法律において地域工務店等は「第二種木材関連事業」と位置付けられ、木材等について合法性の確認措置を講ずるよう努めることが求められている。
- ・地域工務店等は、発注者の要望等があった場合は、木材等を譲り受ける際に提供された次の書類、その他これに類する書類により木材等の合法性の確認を行うことが現実的と考えられる。
 - イ．第一種木材関連事業者（製材工場、原木市場等）から木材等を譲り受ける場合には、その第一種木材関連事業者が合法性を確認できた旨を記載した、又は記録した書類
 - ロ．第二種木材関連事業者（プレカット工場、販売・流通事業者等）から木材等を譲り受ける場合には、その第二種木材関連事業者が合法性の確認を行った旨及び合法性の確認ができた旨を記載した、又は記録した書類
- ・本手引きでは第一種木材関連事業者から第二種木材関連事業者に提出された出荷証明書を想定した例を掲載している。
- ・改正クリーンウッド法が令和7年4月に施行されるため、令和7年度以降は改正法に基づいた対応が必要となる。
- ・詳しくは合法伐採木材等に関する情報提供ホームページ「クリーンウッド・ナビ」(<https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/goho/>)を参照されたい。

6 施工要領

6.1 施工フロー（No. 38）

- ・着工前準備、施工計画、材料調達、施工の段階ごとに実施する作業内容とその流れを整理し、関係する木造建築関連事業者と情報の共有を行う。
- ・木造関連事業者と連携して作業を行う場合は、連携する事業者との役割分担を明確に整理する。

6.3 木材の品質管理

6.3.1 使用する木質材料（No. 40）

- ・木構造工事で使用する主要な木質材料（構造材・構造用合板等）の仕様等を整理する。

(1) JAS 構造用製材

- ・部位ごとに樹種、目視等級区分・機械等級区分の別、含水率、保存処理方法等を記載する。

材面の美観について

- ・材面の美観の区分には、JAS 規格と慣用的な等級の 2 種類の表示方法があり、それぞれで基準が異なる。また、慣用的等級区分は地域によっても異なる。そのため、サンプルを用いて監督職員や監理者等と確認しておくことが望ましい。

(2) 地域認証材

- ・多くの地域で地域材認証制度が創設されている。地域材認証制度は、大きく分けて、産地証明を主目的とした制度と、含水率やヤング係数など JAS に準じた規格を設けている制度がある。後者の場合は、現場における木材の品質管理を合理化できる。
- ・含水率やヤング係数など JAS に準じた規格が設けられている地域認証材を使用する場合は、部位ごとに、樹種、含水率などの規格を記載する。
- ・地域材は、基本的に施工者が決まり、その施工者からプレカット事業者や木材流通事業者への発注があってから調達や加工が始まる。そのため、量が多く特殊な寸法の場合は、調達時間が必要である。詳しくは、「地域材活用の中大規模木造建築物実現の手引き」（平成 28 年 3 月（一社）木を活かす建築推進協議会）を参照されたい。

(<https://www.kiwoikasu.or.jp/data/94f3ec1ddb901419f48600d5f56112e5.pdf>)。

(3) 無等級材

- ・部位ごとに樹種、含水率を記載する。
- ・構造設計上必要となるヤング係数を記載する。

(4) 構造用集成材

- ・部位ごとに樹種、品名（同一等級構成・異等級構成）、強度等級、材面の品質、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。
- ・なお、構造用集成材は使用箇所に応じた接着性能の選定が重要である。屋外など耐候性・耐熱性が必要とされる箇所には使用環境 A の接着性能を用いることが必要である。

(5) 構造用単板積層材（LVL）

- ・部位ごとに樹種、品名（A 種・B 種）、曲げ性能、水平せん断性能、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。

(6) 直交集成板（CLT）

- ・部位ごとに樹種、規格、厚さ、接着剤の種類、接着性能、ホルムアルデヒド放散量を記載する。

(7) 構造用面材

① 構造用合板

- ・部位ごとに樹種、等級（板面の品質）、接着の程度、厚さ、ホルムアルデヒド放散量を記載する。
- ・なお、構造用合板は使用箇所に合わせた接着性能の選定が重要である。外壁の軸組や屋根下

地など耐久性が必要とされる箇所には特類を用いることが望ましい。

②合板以外の面材

- ・ 部位ごとに種別、厚さ、サイズ、規格、認定番号、メーカーを記載する。

6.3.2 木質材料の品質管理方法 (No. 41)

(1) JAS 構造用製材・構造用集成材等

- ・ 検査時期は、工場などで製品検査を行うか現場受入時のいずれかとする。
- ・ 現場へ搬入した材料は、監督職員の検査が必要となる(公共建築木造工事標準仕様書 1.4.4)。
また、納材者が行った自主検査の内容を再確認する。検査の対象は下記(※)を参考として設定する。

※公共建築木造工事標準仕様書では、構造耐力上主要な部分である柱及び横架材全数について、ヤング率が基準値を上回っていることを確認することを原則としている。しかし、本手引きで対象としている低層小規模建築物であっても、柱及び横架材の数量はきわめて多く、全数検査は膨大な時間と労力を要する。このため、予算や工期等も考慮し、発注者、木材関係者、設計者等で協議を行い、発注者の了解を得て全数検査とする部位とその他の部位を明確に区分し、一部を抜取検査とする場合は、抜取検査とする部位及び抜取率をあらかじめ設定しておく事が、現実的な対応策と考えられる。

(2) 地域認証材

- ・ JAS に準じた規格が設けられている場合は、(1)と同様の検査を行う。JAS に準じた規格が設けられていない場合は、(3)と同様の検査を行う。
- ・ 検査の対象は(1)(※)を参考に設定する。
- ・ 地域認証材や森林認証材等、規格の異なる複数の木材を取り扱う場合には、これらが煩雑にならないよう視覚的に識別できるようにする等、仕分け管理に十分に注意する。

(3) 無等級材

- ・ 木材の品質(材面の欠点・含水率・ヤング係数)の確認方法を、特記仕様書等により確認する。
- ・ 公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版 5.2.2 では、無等級材は加工前に材面の欠点・含水率・縦振動ヤング係数を確認することとなっている。
- ・ 検査の対象は(1)(※)を参考に設定する。

●材面の欠点の確認

- 旧製材の JAS（昭和 42 年農林省告示第 1842 号）第 10 条におけるひき角類の格付けの基準を満たすことを目視により確認する。

区分	基準
節	径比が40%以下であり、かつ、集中径比が60%以下
入り皮又はやにつぼ	軽微
丸み	20%以下であり、かつ、1角においては10%以下
曲り	0.2%以下であること。ただし、「土台用」と表示してあるものにあつては、0.5%以下
ねじれ	きわめて軽微であること。ただし、「土台用」と表示してあるものにあつては、顕著でないこと
木口割れ又は目まわり	10%以下
繊維走向の傾斜(幅が90mm未満を除く)	80mm以下
平均年輪幅	6mm以下
あて	軽微
腐れ又は虫あな	軽微
端落ち	端落ち(材の1端の欠除した部分)の厚さ方向の長さの最大値と最小値の和の1/2の材の1辺長さに対する割合が10%以下であり、かつ、材の長さ方向の長さが0.2m以下
その他の欠点	軽微

●含水率の確認

- 高周波水分計等を用い、1 本あたり 6 か所（1 本の製材の異なる 2 面について両小口から 300 mm 以上離れた 2 か所及び中央 1 か所）の測定を行い、その平均値とする。

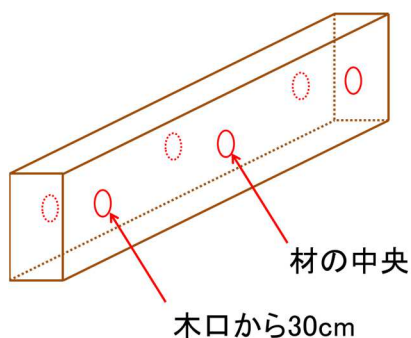


図2 含水率の計測方法



図3 含水率の計測例

●縦振動法によるヤング係数の確認

- 縦振動法とは、試験体（木材）の一方の木口面をハンマーで軽くたたいて試験体を縦振動させ、他方の木口面近くに設置したマイクロホンで材中を伝わる縦波を音としてとらえ、サウンドアナライザーによって分析し、材料の基本振動数を測定することによってヤング係数を算出する方法である。1 試験体につき 1 回の計測を行う。



図4 縦振動法によるヤング係数の計測例

(4) 構造用合板

- ・現場受入時に指定された品質の構造用合板である事を、JAS ラベル又は JAS 印字で確認し、工事写真等により記録を残す。

6.4 木材の加工

6.4.1 木材加工の品質・仕様 (No. 42)

(1) 製材・構造用集成材の寸法許容差

- ・製材や構造用集成材の長さや断面寸法に関する許容差を、特記仕様書等で確認する。
- ・寸法には製材工場の出荷時の寸法を意味する「挽き立て寸法」と、施工者の加工後の実寸法である「仕上がり寸法」があることに注意する。図面での寸法指定は仕上がり寸法である。
※本手引きでは、参考例として（一社）中大規模木造プレカット技術協会における製材の寸法許容差を示している。

(2) 孔あけ等の加工精度の基準

- ・木材にあけるボルト孔等の寸法は、特記なき限り、公共建築木造工事標準仕様書 5.4.3（孔あけ加工）の基準を順守する（ボルト（引張）を除く）。

(3) 表面仕上げの仕様

- ・見え掛かりとなる面の表面仕上げの程度を特記仕様書等により確認する。
- ・本手引きでは、参考例として公共建築木造工事標準仕様書 5.4.4（表面の仕上げ）における、製材の機械加工による仕上げの程度を示している。

(4) 木材保護塗装

- ・建て方時の養生（汚れ止め）として、見え掛かりとなる構造材に、あらかじめ木材保護塗料を塗ることを指定している場合がある。塗装箇所を特記仕様書等で確認し、使用する材料やメーカーを施工計画書に記載する。

(5) 不燃処理木材等

- ・不燃材料、準不燃材料又は難燃材料を使用する場合は、特記による。

6.4.2 木材加工の品質管理方法 (No. 43)

- ・当該検査は木材の加工後に実施し、実施した検査記録を工事写真等にまとめる。

6.5 接合金物等

6.5.1 使用する主な接合具・接合金物 (No. 44)

- ・使用する主な接合部・接合金物を一覧で整理する。
- ・(公財) 日本住宅・木材技術センターが規定するZマーク等の規格があるものは、その規格を記載する。
- ・釘やボルト・ナットなどは JIS 規格があるものは、JIS 規格品を使用する。
- ・接合金物は、直接雨にさらされる屋外環境で使用する場合は、特記がなければステンレス製を用いる。
- ・カタログのコピーを施工計画書の巻末に添付して提出する。

6.5.2 接合金物等の品質管理方法 (No. 45)

- ・接合金物等は現場受入時に指定された製品である事を出荷証明書で確認し、工事写真等により記録を残す。

6.6 アンカーボルトの施工

6.6.1 アンカーボルトの施工精度の基準 (No. 46)

- ・アンカーボルトの施工精度は建て方や建物全体の精度に大きく影響を与えるため、慎重な施工管理が必要である。
- ・アンカーボルトの施工精度の基準やアンカーボルトの保持及び埋込み工法を特記仕様書等で確認する。特記がなければ監理者・監督職員と協議の上決定する。

6.6.2 アンカーボルト施工の品質管理方法 (No. 47)

- ・アンカーボルトの検査はコンクリート打設前に行い、基準を満たしていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.7 建て方の施工計画

6.7.1 建て方フロー (No. 48)

- ・本手引きでは、2階建て軸組工法の建築物の建て方のフロー（例）を示している。
- ・なお、建て方の作業主任者や玉掛け作業員は技能講習修了者であることが必要である。

6.7.2 建て方計画図 (No. 49)

- ・建て方計画図は、総合仮設計画図に建て方時に必要となる情報を追記することを基本とする。
- ・総合仮設計画図に追記する主な内容は以下の通り。

記載内容	留意点
①仮設鉄板敷き部分（クレーン設置場所及び地組スペース部）	
②重機据え付け位置	移動位置を明示
③架空電線の位置 ※作成例では省略	干渉時には防護管を設置
④最遠部の作業半径時の吊り荷荷重（部材の重量）	
⑤最大吊り荷荷重時の作業半径（特に地組部材）	
⑥荷降ろし位置・地組スペース	
⑦重機廻りの立ち入り禁止区域	
⑧建て方手順	

6.8 建て方の施工精度

6.8.1 建て方の精度基準 (No. 57)

- ・建て方の精度に関する基準を特記仕様書等で確認する。
- ・精度を確認する項目には、建物の倒れ、建物の湾曲、階高、柱据付面の高さ、柱の倒れ、梁の水平度等がある。特記がなければ監理者・監督職員と協議の上、確認項目、確認箇所数、許容値等を決定する。

6.8.2 建て方の品質管理方法 (No. 58)

- ・建て方の検査は、建て方後に行い、計測数値が許容値の範囲内であることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.9 接合部

6.9.1 接合部の施工管理の内容 (No. 59)

- ・接合部の接合方法には、釘、木質構造用ねじ、ボルト、ドリフトピン、ラグスクリュー等があり、採用する接合方法を選択する。
- ・詳細は構造木工事監理マニュアル（（一社）中大規模木造プレカット技術協会）を参考にされたい。

6.9.2 接合部の品質管理方法 (No. 60)

- ・接合部の検査は施工時又は施工完了時に行い、接合部の施工管理の内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.10 耐力壁

6.10.1 耐力壁の仕様 (No. 61)

- ・耐力壁には大きく面材耐力壁と筋かい耐力壁があり、それぞれの仕様を特記仕様書等で確認する。

6.10.2 耐力壁の施工管理の内容 (No. 62)

- ・面材耐力壁の管理は、釘の種類、長さ、間隔だけでなく、へりあきの確保やダクトなどの孔あけルールが重要である。

6.10.3 耐力壁の品質管理方法 (No. 63)

- ・耐力壁の検査は施工時又は施工完了時に行い、耐力壁の施工管理の内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.11 水平構面

6.11.1 水平構面の仕様 (No. 64)

- ・水平構面は、2 階以上の床構面と屋根構面に分けられる。それぞれの仕様を特記仕様書等で確認し、施工計画書にまとめる。

6.11.2 水平構面の施工管理の内容 (No. 65)

- ・構造用合板の施工管理は、水平構面の仕様だけでなく、へりあきの確保やダクトなどの孔あけルールが重要である。

6.11.3 水平構面の品質管理方法 (No. 66)

- ・水平構面の検査は施工時又は施工完了時に行い、水平構面の施工管理内容が満たされていることを確認し、記録を工事写真、図面等にまとめる。

6.12 防腐・防蟻

6.12.1 防腐・防蟻の仕様 (No. 67)

- ・木質材料の防腐・防蟻処理方法は、ヒノキ等の耐久性の高い樹種を用いる方法、保存処理材を用いる方法、および薬剤の現場塗布等の方法がある。
- ・防腐・防蟻処理の有無およびその仕様を特記仕様書等により確認し、施工計画書にまとめる。

6.12.2 防腐・防蟻の品質管理方法 (No. 68)

- ・防腐防蟻の検査は、高耐久木材・保存処理材を使用する場合と薬剤の現場塗布で異なる。

参考文献

本手引きの作成においては、以下の資料を参考としました。

- ・ 地域工務店が取り組む中大規模木造建築物の施工管理マニュアル
R4 年度版（令和 5 年 2 月 （一社）JBN・全国工務店協会）
- ・ 中大規模木造建築のプレカット図の読み方セミナーテキスト
（令和 6 年 2 月 （一社）中大規模木造プレカット技術協会、（公社）日本建築士会連合会）
- ・ 施工計画書ひな形集(改訂版)（令和 4 年（一社）日本建設業連合会関西支部 IT 専門部会）
- ・ 中大規模木造建築の担い手講習テキスト（令和 3 年 10 月 日本集成材工業協同組合）
- ・ 公共建築木造工事標準仕様書 令和4年版（国土交通省大臣官房官庁営繕部監修）
- ・ 木質工事特記仕様書（令和 3 年（一社）中大規模木造プレカット技術協会）
- ・ 木造軸組接合部標準図（令和 3 年（一社）中大規模木造プレカット技術協会）

ウッド・チェンジ協議会 低層小規模グループ参加企業等名簿

主査・委員長：大橋 好光（東京都市大学名誉教授）

委 員：（参加企業・団体）

（一社）中大規模木造プレカット技術協会	https://www.precut.jp/
（一社）ＪＢＮ・全国工務店協会	https://www.jbn-support.jp/
（一社）日本木造住宅産業協会	https://www.mokujukyo.or.jp/
日本マクドナルドホールディングス（株）	https://www.mcd-holdings.co.jp/
（株）セブン-イレブンジャパン	https://www.sej.co.jp/
ＳＭＢ建材（株）	https://www.smb-kenzai.com/
（株）シェルター	https://shelter.inc/
住友林業（株）	https://sfc.jp/
（株）竹中工務店	https://www.takenaka.co.jp/
東急建設（株）	https://www.tokyu-cnst.co.jp/
ナイス（株）	https://nice.co.jp/
ポラス（株）	https://www.polus.co.jp/
三菱地所（株）	https://www.mec.co.jp/
ライフデザイン・カバヤ（株）	https://lifedesign-kabaya.co.jp
中国木材（株）	http://www.chugokumokuzai.co.jp
銘建工業（株）	https://www.meikenkogyo.com/

事務局：	（公財）日本住宅・木材技術センター	https:// www.howtec.or.jp/
	（株）アルセッド建築研究所	https://www.alsed.co.jp/

非住宅・木造低層小規模建築物施工管理図書作成の手引き ～発注者の満足度の高い現場運営と施工管理図書の活用に向けて～

令和6年3月発行

発行 公益財団法人 日本住宅・木材技術センター

〒136-0075 東京都江東区新砂3-4-2

TEL 03-5653-7662 FAX 03-5653-7582

<https://www.howtec.or.jp/>

編集・制作／株式会社アルセッド建築研究所

本手引きは令和5年度 林野庁補助事業

「工務店等支援体制の構築」にて作成しました。

本手引きの文章・写真・表等の無断複製・転載を禁じます。